

To read English?
To write English?

片付け /
③ 2班の今も

授業情報誌 Class・学び合う授業 第4号 OCT・2018

class

学び合う授業

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第4号 2018

第4弾

新潟県中学校教育研究会

授業情報誌 **Class**・学び合う授業
第4号 2018年10月

ISSN 2189-8111

新潟県中学校教育研究会

学び合う授業づくりの情報誌

主体的・対話的で深い学び

知識及び技能の質を高める考え方や視点がわかる。
教科別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる。
授業ナビで、学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる。

ISSN 2189-8111

授業情報誌

Class・学び合う授業の内容

「学び合う授業」と「教師の学び合い」の具体的なイメージを伝えることが本誌のねらいです。

- 「知識及び技能」の質を高める考え方や視点がわかります。上智大学 奈須 正裕 様からの特別寄稿。
- 今年度の研究会を実施する指定研究チームが提案する20の「手立て」を紹介します。
- 授業ナビで学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができます。



学び合う授業 新潟地区・国語 指定研究会(新潟市立山の下中学校)2017



教師の学び合い 上越地区・美術 指定研究会(上越市立城西中学校)2017

新潟県中学校教育研究会

授業情報誌 **Class**・学び合う授業
第4号

新潟県中学校教育研究会

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度に発足し、創設55年目を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、15の教科・領域の部があります。その中から毎年20の郡市と教科・領域を指定し、2年間で学び合う授業の具現化を目指し研究する「指定研究」を行っています。

授業情報誌

Class・学び合う授業 第4号

発行日 平成30年10月20日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局
〒950-0908 新潟市中央区幸西3-3-2
じょいあす新潟会館

TEL 025-290-2251 FAX 020-4664-3748

E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp

http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk

印刷 有限会社 東京プリント社

表紙写真 新発田市立猿橋中学校

デザイン・イラスト 山内 伸二(県中教研事務局)

ISSN 2189-8111

class

学び合う授業

新潟県中学校
教育研究会
授業情報誌
第4号 2018

学び合う授業づくりの情報誌

第4弾

主体的・対話的で深い学び

知識及び技能の質を高める考え方や視点がわかる。
教科別の学び合う授業のイメージや手立てを得ることができる。
授業ナビで、学び合う授業や教師の学び合いを見直すことができる。

これからの学校と 学び合う授業の創造

「教育AIで個別指導 文科省 小中高で実証実験」これは8月21日、ある朝刊1面の見出しです。文部科学省が、来年度から人工知能(AI)などの最先端技術を教育に生かす「EdTech(エドテック)」の実証実験に乗り出すことを受けて記事にしたものです。記事は、AIによる個別学習についてが中心ですが、これは、文部科学省が今年6月に公表した「Society5.0に向けた人材育成—社会が変わる、学びが変わる—」の中の3本柱の1つです。その3本柱とは、Ⅰ「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習の機会と場の提供、Ⅱ基礎読解力、数学的な思考力などの基礎的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得、Ⅲ文理分断からの脱却です。そして、これを文部科学省としての「思い」として分かり易く解説しているのが、初等中等教育局メールマガジン第335号の初等中等教育局 合田哲雄財務課長の【コラム】です。以下にその一部を抜粋します。

『これらのテクノロジー(EdTech)が確立すれば、本文巻末の「Society5.0に向けた学校ver.3.0」にあるとおり、学校を中心とした子供たちの学びは、基礎学力の確実な定着にしても、個人の関心や特性に応じた学びにしても「個別最適化」が可能になります。だからといって、学校における集団を軸にした教育が不要になるわけではありません。むしろ逆で、人間としての強みを発揮する上で不可欠な、他者と協働して知識を活かし、より善く生きよう、より善い社会にしようという資質・能力を育む上で、学校における集団を活かした学びは益々重要になってきます。』



新潟県中学校教育研究会
副会長 佐藤 幹夫

また、文中で触れられている「Society5.0に向けた学校 ver.3.0」のSociety5.0における学びの在り方では、同一学年集団の学習は、同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に
応じた異年齢・異学年集団での共同学習へ拡大されていくとも述べられています。

これからの学びが生徒一人一人に公正に個別最適化されたとき、私たち教員に求められる
授業力は、共同学習を推進し、いかに深い学びに結び付けることができるか、その力では
ないでしょうか。

新潟県中学校教育研究会は、創設55周年を迎えます。また、「学び合う授業の創造」をテー
マに講義式・知識伝達型の一方向の授業を改革する取組を推進し5年目に入りました。今
年度は、「学び合う授業」と新学習指導要領の示す「資質・能力」、「主体的で対話的な深
い学び」との整合を図り、今後の研究の方向性を明確にすることを目指しています。

本会がそのような学びの在り方を追究していくことにより、これからの時代の教員に求
められる共同学習を推進する力が、県内全ての教員に身に付き、それが若い世代に引き継
がれていくことで本県教育の質が維持、向上するものと考えております。そのために、創
設55周年研究大会や指定研究会・本情報誌をとおして、全ての学校・全ての教室に「学
び合う授業」が届くことを期待しています。

最後になりますが、会員の皆様の本情報誌への寄稿に感謝すると共に、本誌が会員の皆
様の授業力向上のため、存分に活用されることを願っています。

目次

巻頭言 第4号発刊にあたって これからの学校と学び合う授業の創造 2
新潟県中学校教育研究会 副会長 佐藤 幹夫

《指定研究2年目・指定研究1年目》 6

1 主体的・対話的で深い学びの創造 — 特別寄稿 — 8
上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕

2 各指定研究チームが提案する資質・能力育成の手立て

社会

「社会的な見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現する 16
県中教研 社会部 全県部長 若林 靖人

意見を可視化して、他者と共に主体的に追究!! 18
柏崎・刈羽中教研 社会部

問い直しの継続で、課題を追究し続け、思考力を高めます! 20
長岡市三島郡中教研 社会部

“思考の可視化”で意見の根拠を明確にし、論理的思考力を高める! 22
燕市・西蒲原郡中教研 社会部

思考ツールで得た情報を構造化し、自分の考えを再構築させる!! 24
阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研 社会部

理科

単元の指導計画を練り直し、資質・能力を育てよう! 26
県中教研 理科部 全県部長 石坂 均

『どこでもフレーム』・『鉄板フレーム』の活用で、質の高い思考を促進!! 28
糸魚川市中教研 理科部

3つの視点で学びをつなぎ、新たな知を獲得!! 30
三条市中教研 理科部

増えると思ったけど増えない! 「なぜ?」を引き出しモデルで解決! 32
新潟市中教研 理科部

“学びの蓄積シート”で考えをもち、議論し合う授業の実現を!! 34
二市北蒲中教研 理科部

英語

生徒が「見方・考え方」を働かせる授業づくりを! 36
県中教研 英語部 全県部長 重野 準司

仲間と試行錯誤しながら学び、考えや思いを伝え合う活動へ! 38
上越市中教研 英語部

その場で思考・判断・表現する活動を継続して授業に位置付け、 生徒の伝え合う力をUP !!	40
中魚・十日町市 中教研英語部	
全体で共有した評価基準を活用し、段階を踏んだタスクで力をつける !!	42
新潟市中教研 英語部	
帯活動を継続的に行うことで、生徒が「話したい」から「話せる」ように！	44
新発田市中教研 英語部	

音楽

音楽を楽しむ基礎の習得+仲間との「学び合い・高め合い」 ＝音楽を愛好する心の育成！	46
県中教研 音楽部 全県部長 笠井 克人	
仲間と音で試す + 言葉で意見を交わす 表現をより高める！	48
上越市中教研 音楽部	
鑑賞から表現への移行の過程にある気づきで表現力UP !!	50
長岡市三島郡中教研 音楽部	
箏で「私たちのくさくらさくら」を表現しよう！	52
新潟市中教研 音楽部	
イメージから音へ 音から音楽へ ICTの利活用で創造力・表現力を育成	54
阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研 音楽部	

学校保健

生涯を通じて心も体も健康でいてほしいと願いを込めた健康教育 !!	56
県中教研 学校保健部 全県部長 相馬 明子	
『いのちの大切さ』をがん教育で学ぶ！思考ツールで主体的な学びを !!	58
上越市中教研 学校保健部	
よりよい自己決定へと導き、実践による学びを支援する保健指導を！	60
魚沼市中教研 学校保健部	
多様な捉え方を出し合うことで、新たな視点に気づき、心の回復へとつなげる	62
新潟市中教研 養護部	
事例をもとに自分のこととして考え、捉え方を変えることで 不安や悩みを解決しよう !!	64
五泉市・東蒲原郡中教研 学校保健部	

3 指定研究 1 年目の進捗状況

国語	67
数学	68
技術・家庭	69
道徳	70
特別活動	71

4 授業ナビゲーション

県中教研 授業ナビゲーション	73
----------------	----

編集後記	80
------	----

新潟県中学校教育研究会 理事長 若月 弘久

1年目、2年目の計40郡市が指定を受け、40の研究チーム(研究推進委員会)が「教科・領域における学び合う授業の具現化」を目指し、研究を推進しています。

指定研究 2年目

教科領域	地区	推進郡市	研究推進責任者		会場校	研究会日
社 会	上越	柏崎・刈羽	関野 道也	柏崎市立東中学校	柏崎市立西山中学校	11月 9日(金)
	中越	長岡・三島	高橋 信之	長岡市立江陽中学校	長岡市立旭岡中学校	11月28日(水)
	新潟	燕・西蒲	井上 北斗	弥彦村立弥彦中学校	燕市立吉田中学校	11月 6日(火)
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	仙田 真紀子	胎内市立乙中学校	胎内市立築地中学校	11月 1日(木)
理 科	上越	糸魚川	阿部 信貴	糸魚川市立能生中学校	糸魚川市立糸魚川中学校	11月 7日(水)
	中越	三条	京野 隆	三条市立第一中学校	三条市立大崎学園	11月13日(火)
	新潟	新潟	間 英法	新潟市立藤見中学校	新潟市立小新中学校	11月 1日(木)
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	小林 寿	阿賀野市立笹神中学校	阿賀野市立笹神中学校	11月 9日(金)
英 語	上越	上越	神戸 邦子	上越市立直江津中学校	上越市立安塚中学校	11月21日(水)
	中越	十日町・中魚	信賀 悠次	十日町市立十日町中学校	十日町市立松之山中学校	11月 9日(金)
	新潟	新潟	小田 久美子	新潟市立宮浦中学校	新潟市立新津第一中学校	11月 1日(木)
	下越	新発田	酒井 知子	新発田市立第一中学校	新発田市立加治川中学校	11月 9日(金)
音 楽	上越	上越	遠藤 好子	糸魚川市立能生中学校	上越市立雄志中学校	11月28日(水)
	中越	長岡・三島	岡村 真由美	長岡市立旭岡中学校	長岡市立南中学校	11月26日(月)
	新潟	新潟	熊木 勘治	新潟市立新潟柳都中学校	新潟市立小新中学校	11月29日(木)
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	遠藤 明子	胎内市立築地中学校	阿賀野市立安田中学校	11月22日(木)
学校保健	上越	上越	池上 薫	上越市立直江津中学校	上越市立吉川中学校	11月 8日(木)
	中越	魚沼	佐藤 ひとみ	魚沼市立湯之谷中学校	魚沼市立守門中学校	11月 1日(木)
	新潟	新潟	坂井 妙子	新潟市立葛塚中学校	新潟市立亀田西中学校	11月 1日(木)
	下越	五泉・東蒲	高橋 裕香	阿賀町立阿賀津川中学校	五泉市立五泉北中学校	10月29日(月)

指定研究 1年目

教科領域	地区	推進郡市	研究推進責任者		会場校
国 語	上越	上越	小林 由希子	上越市立春日中学校	上越市立中郷中学校
	中越	三条	塚越 卓実	三条市立栄中学校	三条市立第四中学校
	新潟	新潟	河原 久美子	新潟市立白新中学校	新潟市立黒崎中学校
	下越	村上・岩船	清野 絢	村上市立朝日中学校	村上市立村上第一中学校
数 学	上越	上越	佐藤 行夫	上越市立城西中学校	上越市立浦川原中学校
	中越	長岡・三島	鳥島 綾子	長岡市立江陽中学校	長岡市立青葉台中学校
	新潟	新潟	田村 友教	新潟市立白新中学校	新潟市立鳥屋野中学校
	下越	五泉・東蒲	鈴木 隆士	阿賀町立阿賀津川中学校	阿賀町立三川中学校
技 術 家 庭	上越	上越	水野 頌之助	上越市立春日中学校	上越市立直江津東中学校
	中越	南魚沼・南魚	荻井 憲二	南魚沼市立八海中学校	南魚沼市立大和中学校
	新潟	新潟	関野 幹裕	新潟市立白新中学校	新潟市立新潟柳都中学校
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	木島 靖人	聖籠町立聖籠中学校	胎内市立中条中学校
道 徳	上越	柏崎・刈羽	山本 直恵	柏崎市立松浜中学校	柏崎市立南中学校
	中越	小千谷	渡辺 直人	小千谷市立千田中学校	小千谷市立片貝中学校
	新潟	新潟	嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校	新潟市立木戸中学校
	下越	村上・岩船	長谷川 堯哉	関川村立関川中学校	村上市立村上東中学校
特別活動	上越	妙高・糸魚川	桑原 大和	妙高市立新井中学校	妙高市立妙高高原中学校
	中越	長岡・三島	若林 圭太	長岡市立秋葉中学校	長岡市立堤岡中学校
	新潟	新潟	佐藤 裕子	新潟市立石山中学校	新潟市立小須戸中学校
	下越	新発田	長谷川 直紀	新発田市立本丸中学校	新発田市立東中学校

① 主体的・対話的で深い学びの創造

特別寄稿

上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕様から寄稿をいただきました。11月20日に行われる県中教研創設55周年研究大会では御講演をいただきます。

県中教研が進める「学び合う授業」の具現化に向けて、知識・技能の質的な向上について、有益な示唆を得ることができます。



〈特別寄稿〉

主体的・対話的で 深い学びの創造



上智大学総合人間科学部教育学科
教授 奈須 正裕

1. 思考力の実体は知識の状態である

新学習指導要領では、資質・能力という表現の下、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つが、いわば同列の学力要素なり学力側面として位置付けられた。我が国の教育について、「知識及び技能」に偏重しがちであるとの指摘なり懸念には根強いものがあり、その意味でも今回の改訂は画期的と言えよう。

その一方で、具体的に「思考力・判断力・表現力等」をどのように育成すればよいかと考えた時、それらは「知識及び技能」とどのような関係にあるのか、より実践的には、個々の授業で指導する「知識及び技能」とは別のものとして育成すべきなのか、そのように育成しうるのかが大きな問題となってこよう。

この問いに対し、人間の学習について研究してした心理学者たちは、たとえば思考力が領域固有な個別的知識と別のものとして一般的、実体的に存在するとは考えなくなってきた。むしろ思考力とは、膨大な数の領域固有知識が、さまざまな状況や文脈と意味的、機能的に結び付き、必要に応じて自在に繰り出されるよう、高度に組織化され構造化された（精緻化：elaboration と呼ぶ）状態を指すと考えるようにさえなっている。

場面や状況や問題に応じて適切な知識や技能が個性的・創造的に繰り出され、その結果として優れた問題解決が成し遂げられるのを見る時、人はその生徒が高い思考力を有すると感じるが、現実に生徒の中に存在し、機能しているのは個々の知識だというわけである。実際、思考力それ自体を直接に教えることは不可能であり、常に個別的な知識や技能を介して汎用性のある思考力（と見える働きなり状態）は育成されてきた。

もちろん、単に領域固有知識を教えさえすれば、思考力が育つわけではない。知識の状態こそが思考力だというからには、生徒の中に形成される知識の質が決定的に重要なのであり、それをしっかりと実現するに足るような教え方を工夫する必要がある。

以下では、このような議論をもたらした研究のいくつかを紹介すると共に、そこで指摘された知識の質をもたらす教育方法のあり方について考えてみたい。

2. GPSの挫折と領域固有知識

「思考力・判断力・表現力等」について、汎用的認知スキルと呼ぶことがある。これは、場面や状況に依存することなく、どんな時にも有効な思考や判断の仕方といったものが存在し、さまざまな問題解決に対し効果的であるという考え方を基盤にしている。

1950年代、人工知能研究や認知心理学など、人間の知的振る舞いを情報処理の枠組みで検討する研究が盛んになる中で、汎用的認知スキルの存在を問う研究が行われた。たとえば、初期の人工知能であるジェネラル・プロブレム・ソルバー (General Problem Solver : GPS) というコンピュータ・プログラムは、丘登り方略や手段－目標分析といった汎用的な問題解決方略を基盤としていたが、それにより、代数、幾何、チェスなど、さまざまな領域の問題を次々と解決することに成功した。

丘登り方略とは、とにかく上へ上へと進み続け、もはや上に進むことができなくなったら立ち止まり、頂上に到達したと判断するという方略である。また、手段－目標分析とは、目標の実現に必要な手段的活動を探索し、さらにその手段的活動を目標と見た場合に必要な手段的活動を探索するという作業を目標状態と現状のずれがなくなるまで繰り返すことで、目標へと至る筋道を見出す方略である。

これらはいずれも、その適用に際して特定の領域固有知識を必要としない。その意味で、汎用的認知スキルの一種である。GPSが明らかにした、汎用的認知スキルがさまざまな領域の問題解決に有効であったという事実は、思考力が領域固有知識とは独立した実体的学力であるという見方を強力に支持する。

しかし、GPSのような試みは研究領域の拡大に伴いたちまち挫折した。GPSはパズルや定理の証明のような純粋な形式論理操作では好調だったが、物理学や医療診断のような多くの事実的知識に問題解決が左右される領域ではすぐに行き詰まった。理由は明白で、そこでは領域固有知識を状況に応じて適切に活用することが必要であり、効果的でもある。そして、実社会・実生活における問題場面としては、パズルや定理の証明のようなケースの方が数的にも少なく、むしろ特殊である。

さらに、汎用的認知スキルの働きと考えられてきた現象の中に、高度に精緻化された領域固有知識の活用が混在していたこともわかってきた。たとえば、将棋やチェスの名人が、長い対局中のコマの動きをすべて正確に記憶しているのに驚かされることがある。この事実は、将棋やチェスの熟達者が記憶力という汎用的認知スキルを高める証拠と信じられてきた。

ところが、改めて検討したところ、彼らは過去の経験から盤面に現れる典型的なコマの配置パターンを領域固有知識として膨大にストックしており、それらを当てはめて覚えることで大幅な記憶の効率化に成功していたのである。実際、めちゃくちゃにコマを配置した盤面を暗記する課題を与えたところ、名人でも一般の人と同程度のコマ数しか記憶できなかった。

このように、熟達者は汎用的認知スキルによってではなく、所有する領域固有知識を存分に

活用した対象特殊な方略により、質の高い問題解決を実現している。かくして、1970年代半ばまでには、心理学者は汎用的認知スキルの働きや意義を部分的には認めつつも、質の高い領域固有知識とその効果的活用こそが知的振る舞いの中核をなすと考えるようになった。

3. 知識の活性化

GPSの挫折は問題解決における領域固有知識の優位性を印象付けたが、もちろん知識の単なる所有は質の高い問題解決の十分条件ではない。問題解決を成し遂げるには、その知識が有用な時には迅速且つ確実に呼び出されることが不可欠である。これは知識の活性化の問題であり、記憶内に貯蔵されているにも関わらず「生きて働かない」知識を、心理学では「不活性な知識 (inert knowledge)」と言う。

不活性な知識と活性化された知識では、その質に違いがある。不活性な知識は、言語的な命題や事実として貯蔵されていることが多い。たとえば、「車両走行中にアクセルペダルから足を離したり、低いギアにチェンジすることによって生じる制動作用をエンジnbrakeと言う」といった具合である。伝統的な学校のテストでは、「アクセルペダル」や「制動作用」のところを空欄にし、穴埋め問題や多肢選択問題としてきた。しかし、それができることがどのような意味で「学力」なのかが、今問われている。

一方、活性化された知識では条件 (IF) 節と行為 (THEN) 節が対を成しており、行為節の知識がどのような場合に活用可能かは条件節の中に明示されている。たとえば、「もし、急な下り坂や雪道ならば」(条件節)、「車両走行中にアクセルペダルから足を離したり、低いギアにチェンジすることによって生じる制動作用 (=エンジnbrake) を使って走行しなさい」(行為節) といった具合である。

さらに詳細には、フットブレーキを使ってはいけない理由が、長い下り坂の場合にはブレーキパッドの許容範囲を超えた熱が発生しブレーキが効かなくなる (フェード現象) からであり、雪道ではタイヤをロックしてスピンしかねないからだ。そういった知識も含めて貯蔵することにより、知識はいつそう適切且つ効果的に活性化される。

自動車学校ならば、エンジnbrakeを言葉として知っている、あるいは概念定義を説明できるだけで終わることはあり得ない。その知識をどのような場面で用いるか、条件節についても併せてしっかりと指導し、さらにさまざまな状況で実地に経験を積ませるのが普通であろう。

一方、従来の学校では行為節の指導にばかり意識を集中し、条件節の指導を軽視してきた。その結果、生徒が所有する知識の多くは不活性な状態に留まっている。条件節の欠如は、知識が「生きて働かない」、つまり知識が思考力にまで届かない状態に甘んじている、およそ最大の原因である。

4. 問題志向的な学習

知識の活性化の程度は、どのように学んだかに依存する。ブランスフォードらはこのように考え、食物の栄養学的価値、液体の標準密度としての水の利用、青銅器時代のオイルランプの作り方など、理科学的な事実が書かれた読み物を準備した。そして、「できるだけ多く覚えるよう」教示した「事実志向的 (fact-oriented)」な学習群と、「アマゾン川を下る旅支度をしているつもりで読むよう」教示した「問題志向的 (problem-oriented)」な学習群に読ませて比較した。

文章を読んだ後、生徒たちは南西砂漠への旅行に際して考慮すべき10の問題を挙げ、できるだけ具体的に述べるよう求められる。すると、事実志向的な学習をした生徒たちは今読んだばかりの文章にはほとんど言及せず、「十分な食べ物と水を持って行く」といった曖昧な答えに終始した。一方、問題志向的な学習をした生徒たちは文章の情報を自発的、創造的に活用し、持っていく食べ物の種類、水の重さへの配慮、砂漠でのガソリンの利用可能性などについて明快に語った。

問題志向的な学習が効果的なのは、後に出合う問題場面と類似した文脈で学ぶからである。それにより、知識はそれが活用可能な条件とセットで獲得される。さらに多様な文脈へと学習が広げられるならば、知識はそれらと豊かに結び付き、広範囲にわたって活性化しやすい知識へと成長していくだろう。

近年、外国語科等でよく言われるオーセンティックな学習や教材といった考え方も、学びの素材や文脈を実社会・実生活に存在する本物の実践に近づけることを原理としており、問題志向的な学習と軌を一にしている。「思考力・判断力・表現力等」の育成に当たっては、まずもって授業や教材のあり方を問題志向的な、あるいはオーセンティックなものとしていくことが大切なのである。

5. 「見方・考え方」に沿った精緻化

領域固有知識と問題解決の関係を巡って、もう一つ注目すべき事実がある。それは、熟達者の知識はその量的多さもさることながら、知識相互の精緻化が進んでおり、これが問題解決の質的向上に寄与していることである。

たとえば、心理学者のチーらは、物理学の熟達者（物理の博士号取得者）と初心者（学部学生）が斜面を物体が滑り降りる力学問題を解くのに用いる知識は、要素の数では大きな違いはないものの、知識相互の結び付き方、つまり精緻化の仕方に決定的な違いがあり（図1、図2）、それは実際の思考にも強く影響していることを突き止めた。

初心者はまず、斜面の角度、長さ、高さといった表面的特徴を連想し、最後によくニュー

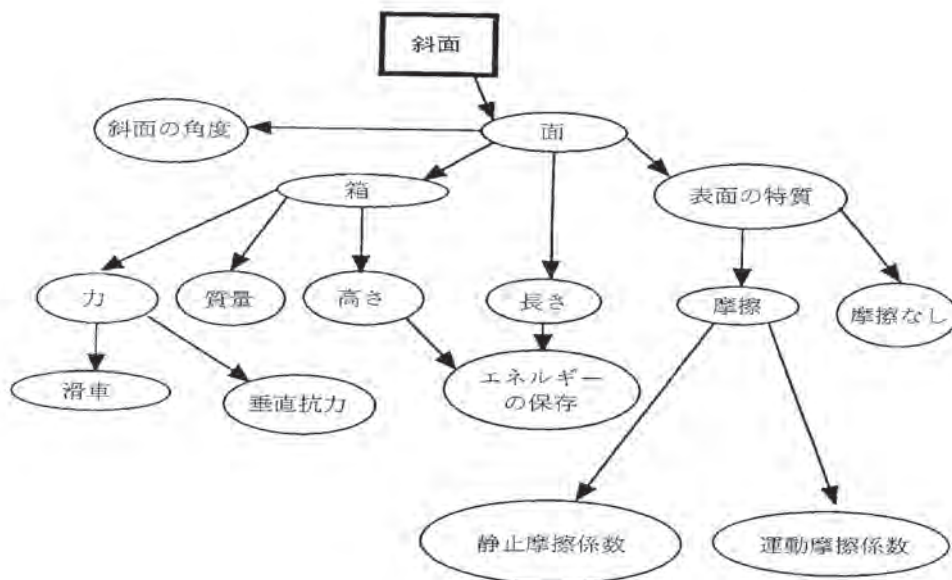


図1 初心者の知識構造

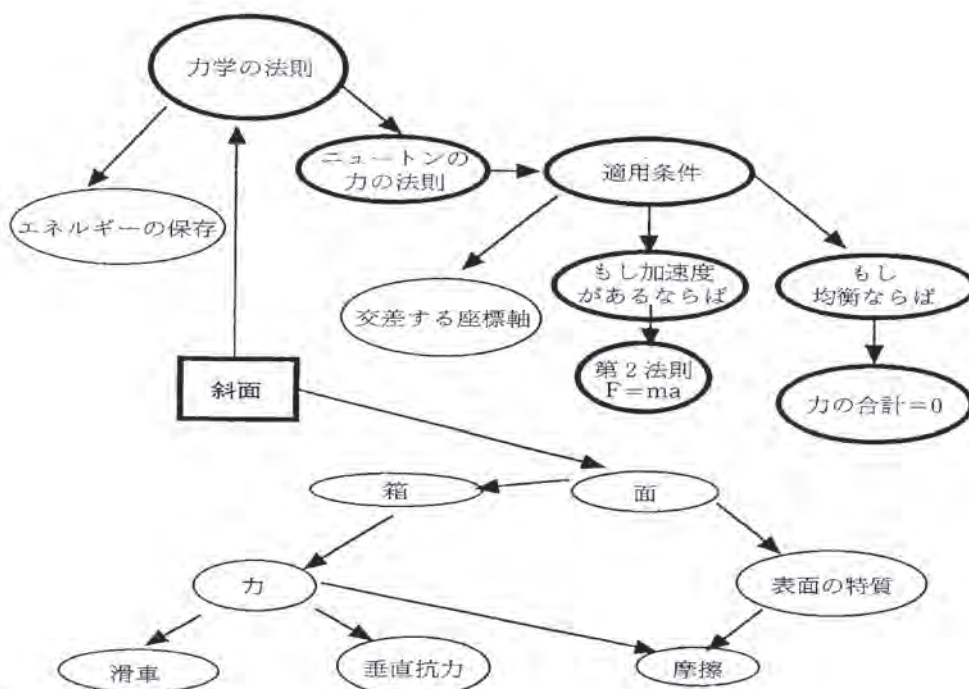


図2 熟達者の知識構造

トンの法則やエネルギー保存へと意識を向かわせる。一方、熟達者はいきなりニュートンの法則やエネルギー保存など斜面問題に関わる物理法則を想起し、次に法則の適用条件に思いを巡らせ、最後に斜面の表面的特徴へと意識を向けていた。また、初心者は斜面問題とバネの問題を別種の問題と見なしたが、熟達者は解決に用いる原理や法則を根拠に同一カテゴリーに属すると判断した。

熟達者は物理学の学問構造に近似した質の知識を所有しており、それが彼をして、世界を単なる物質の集まりではなく、物理的法則によって支配されているシステムと見なすよう促して

いた。そして、日常生活で出合う事物や現象ですら、必要であれば、その表面的な特徴に惑わされることなく、深層に潜む法則や原理の角度から眺め、処理できるのである。

このように、教科を学ぶとは単に知識の量が増えるだけでなく、知識の精緻化のありようが、その教科が持つ独自の意味ある構造、新学習指導要領で言う「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』」に沿った方向へと組み変わり、洗練されていくことである。そしてその結果、生徒は世界をこれまでとはまったく違った風に眺め、関わったり取り扱ったりすることができるようになる。

6. 明示的な指導

では、具体的にどのようにすれば、「見方・考え方」に沿った形で知識相互の間に意味ある結び付きを生み出し、精緻化された知識へとその質を高めることができるのか。

一つの方法は、その教科において繰り返し現れる中核概念(ビッグ・アイデア、セントラル・アイデア、構造、本質的な問い等と呼ばれる)を拠り所に、教材や単元を超えた複数の学習経験を俯瞰的に整理・比較・統合し、その一段抽象化された意味を、それとはっきりわかるよう明示的に指導することである。

たとえば、小学校の例になるが、理科の振り子の実験で「どんな工夫が必要か」と問えば、さまざまに試してみる中で、児童は「何度も計って平均を取ればよさそうだ」と気付く。この段階で教師は、科学的な方法論を構成する中核概念としての「誤差の処理」を理解したと思いがちだが、いまだ「振り子」という具体的な対象や状況との関わりでの気付きに留まっており、概念的な理解にまでは至っていない。そこで、授業の最後に、思い切りボケて尋ねてみる。

「今日の実験で、どうして振り子が振れる時間を何度も計って平均を取っていたの。」

「正確なデータを採るためです。でも、それは理科の実験の基本でしょ。いつだってそうしていると思うんですけど。」

「そうかなあ。電流計の時は、何回も計って平均を取ったりはしていなかったよ。」

「だって、電流計の針は一発でピタリと止まるから。ああ、そうか。電流計と違って振り子は動きが不安定でどうしても値がばらつくから、何度も計って平均を取ったんだ。これまでたくさんの実験をやってきたし、その場その場で工夫してきたけど、なぜそうしたのか、なぜそれでうまくいったのか、振り返って整理すると面白いかもしれない。」

複数の経験を整理し、丁寧に比較・統合することで、個々の実験に独自の部分と共通する部分が見えてくる。すると、振り子も含め物理領域ではばらつきの多くは測定誤差だが、生物領域では個体差が優勢だということにも気付くだろう。これは中学校でいう第一分野と第二分野における方法論的な特質の一つだが、このような概念的理解は、今後それぞれの領域で実験や観察に取り組む際の大きな助けとなるに違いない。

7. 「教科の本質」を巡る実践資産を発展的に継承する

以上、「知識及び技能」の質、精緻化という観点から「思考力・判断力・表現力等」の育成について考えてきた。そこでは、まずもってその知識が活用される文脈や状況と緊密に結び付くことにより、活性化された質の知識とすることが重要であった。さらに、その教科等ならではの「見方・考え方」に沿った形で知識が相互に結び付き、高度に体系化されることが望まれる。

資質・能力の育成は、領域固有知識の相対的軽視をもたらさしめない。むしろ、個々の知識の質の抜本的改善と、教科の本質に沿った知識相互の精緻化をこそ求めているのであり、それこそが思考力を始めとする汎用的認知スキル育成の実相なのである。

このように考えるならば、教科等横断的で汎用的な資質・能力の育成が求められている今だからこそ、各教科等ならではのものをしっかりと確認し、毎日の授業、そして中学3年間を通した意図的・計画的・組織的な指導により、すべての生徒に着実に感得させることが大切になってこよう。新学習指導要領でいう、「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』」、そして「カリキュラム・マネジメント」もまた、まさにそのような方向性を示唆している。

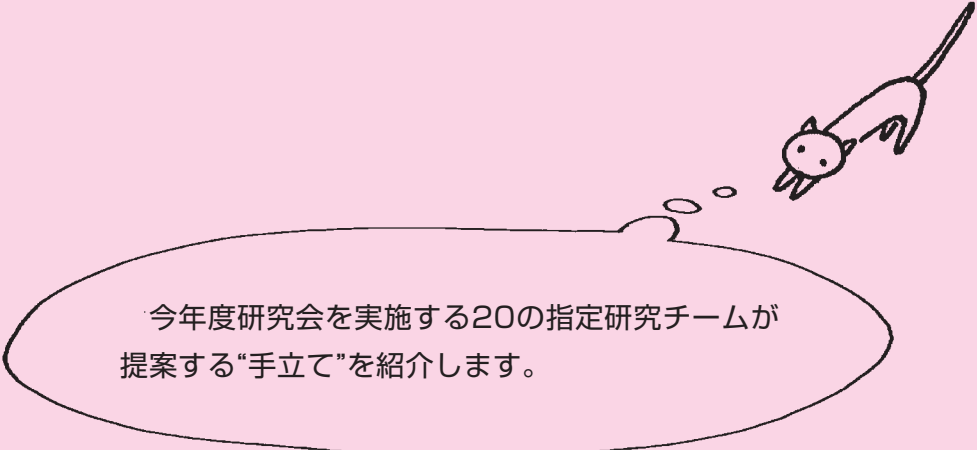
それは、改めて一つひとつの教科とは何かを理論的・実践的に問い直すことであり、文字通り茨の道となるであろう。と同時に、昭和の心ある教師たちが「教科の本質」と呼んで大切にしていたものの延長線上にあることもたしかである。教科が要素的知識の単なる集合体ではなく、それぞれに独自の世界観とそれを達成する巧みな方法論の体系であることを看破すると共に、その本質をつかみ取り、さらに進んで実践化に取り組む「草の根」の動きは、どの地域にも確実に存在してきた。

したがって、まずはそのような先人たちの果敢にして創造的な挑戦の足跡を掘り起こし、本稿で見てきたような、その後に明らかとなってきたさまざまな知見をも参考にしながら、新学習指導要領が目指す学力論としての資質・能力育成などの今日的な文脈の中に位置付け直すことが大切になってくる。それら我が国の貴重な実践資産を発展的に継承し、さらに若い世代へと伝えていくことを、都道府県や市区町村における現場教師の組織的な教育実践研究の柱の一つとすることが、今、非常に大切であり、また有望であると、私は考えている。

● 奈須 正裕 プロフィール

1961年、徳島県生まれ。徳島大学教育学部卒、東京学芸大学大学院、東京大学大学院修了。博士(教育学)。国立教育研究所、立教大学などを経て、現在、上智大学総合人間科学部教育学科教授。専門は教育方法学、教育心理学。中央教育審議会教育課程部会委員。主な著書に『「資質・能力」と学びのメカニズム』(東洋館出版社)、『教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり』(図書文化社)など。

② 各指定研究チームが提案する 資質・能力育成の手立て

A simple line drawing of a cat jumping from the top right towards a large, horizontal oval thought bubble. Three small circles lead from the cat to the bubble. Inside the bubble is Japanese text.

今年度研究会を実施する20の指定研究チームが
提案する“手立て”を紹介します。

社会

「社会的な見方・考え方」 を働かせ、深い学びを 実現する



県中教研 社会部 全県部長
十日町市立南中学校 若林 靖人

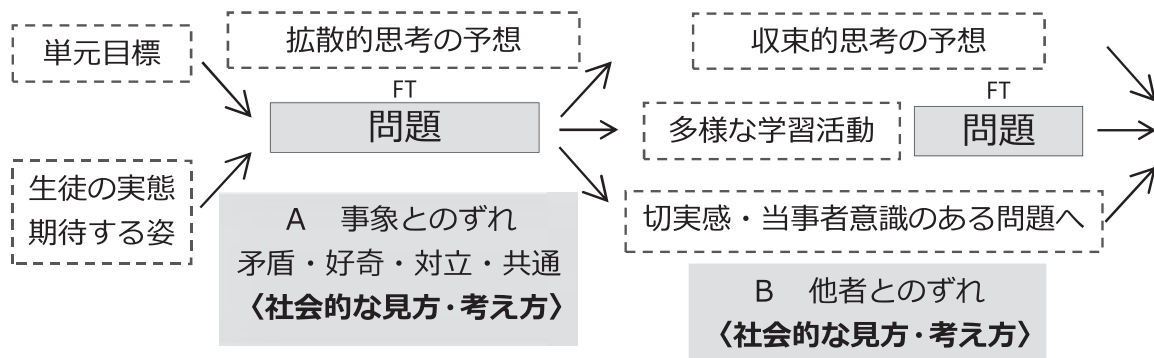
深い学びの鍵となるのが、「社会的な見方・考え方」を働かせることです。このことで、生徒が社会的事象を自分自身との関わりから考えることができ、「当事者意識」をもちながら思考を深めていくことが可能となります。このときに、有効となるのが「学び合う授業」の実現です。ここでは、そのためのポイントを2つ紹介します。

ポイント1 一単元を見通して、見方・考え方を働かせた拡散的思考と収束的思考を考える。

「社会的な見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現させるためには、生徒の実態を踏まえ、学習内容を構造化し、生徒の問題意識の動きを想定しながら、その場面を設定することが必要です。一般的に一時間の学習問題（課題）の授業では、「社会的な見方・考え方」を十分に働かせることが難しく、深い学びに

は至らない傾向があります。

そこで、一単元を見通して、「社会的な見方・考え方」をどの場面でどう働かせるか、個々の拡散的思考から集団的思考を通して生徒が何を問題としていくかなどについて検討し、実践することが大切です。そのためには、単元構想シートを活用することも有効です。



※「Class」第2号2016 P24の図を参考に改良

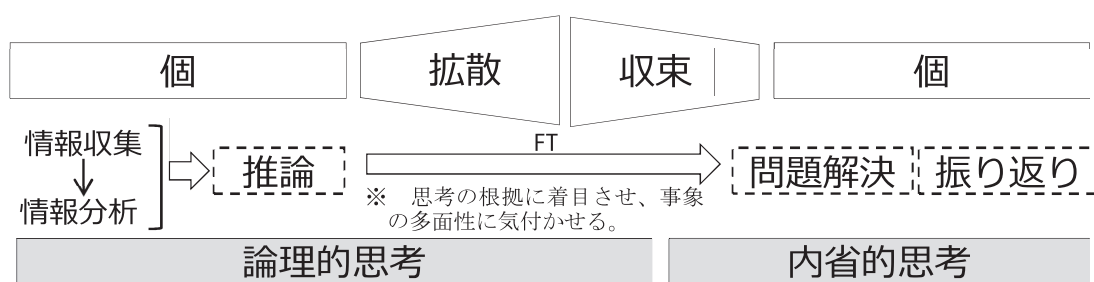
ポイント2 根拠に基づいた論理的思考と内省的思考で学び合いを深める。

知識基盤社会で求められているのは批判的思考力です。批判的思考力とは、証拠に基づく論理的思考と自分の思考を意識的に吟味する内省的思考の2つに分けることができます。

生徒が社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する際に必要とされるは、正しい情報を選択し、それを根拠に思考すること、自分だけの視点ではなく多面的に捉えることであり、これが論理的思考となります。県中教研が提案する「拡散」

から「収束」の過程では、事象の多面性に気付くことができるよう、思考の根拠に着目させて「学び合う授業」を進めることで、論理的な思考が可能となり、さらに客観的、多面的な視点に基づく内省的思考を促すことにもなります。

このような「学び合う授業」によって、生徒の社会的事象への理解が深まるとともに、「社会的な見方・考え方」が鍛えられることとなります。



(引用・参考文献)「批判的思考について」京都大学大学院教育学研究科教育認知心理学講座教授 楠見孝氏 (中教審高等学校教育部会 H24.9.7)

社会 重点方針

自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。

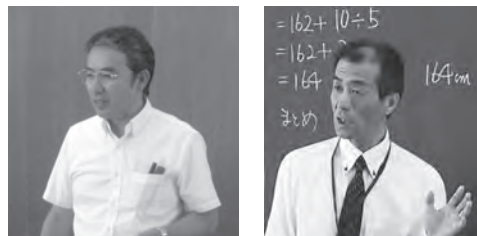
- 生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。
- 学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。
- 資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。

社会 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画を立てている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活と関わらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの特明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

社会 〈上越地区〉

意見を可視化して、 他者と共に主体的に 追究 !!



柏崎市刈羽郡中教研 社会部
研究推進責任者(左) 柏崎市立東中学校 関野 道也
会場校担当(右) 柏崎市立西山中学校 内山 公明

実生活に関わる事象について追究することで切実感が高まります。自他の考えを可視化し、学び合いを通して主体的に追究することで、思考が深まります。

手立て設定の理由

実生活に深く関わる消費者の権利や責任と地域経済について考えます。今現在や将来の自分の生活に関わる学習課題について追究することで、より切実感が高まります。自分の立場とその根拠を明確にして、意見形成、意見交換をすることで、批判的思考力が高まります。

手立てのメリット

- ① 実生活に関わる事象について追究することで、切実感が高まります。
- ② 全員に考えを主張する機会が保障されます。
- ③ 論点が明確になり、個の思考が深まります。

手 立 て

意見を可視化し、学びを深める。

ステップ1

実生活に関わる事象を取り上げる。

ステップ2

立場やその根拠を明確にして意見を形成する場を設定する。

ステップ3

個人の考えや論点を可視化しながら意見交換をする場を設定する。

どのような生徒の姿を目指すか？

実生活に関わる事象について、今現在や将来の自分の生活と関連付け、切実感をもって追究する姿を目指します。また、個人の意見や論点を可視化することで、自他の考えやその変化を比較、整理、統合し、今後どのように社会と関わっていくかを主体的に考える姿を目指します。

ステップ 1



実生活に関わる事象について追究することで切実感が高まります。

主体的に追究することで思考が深まります。

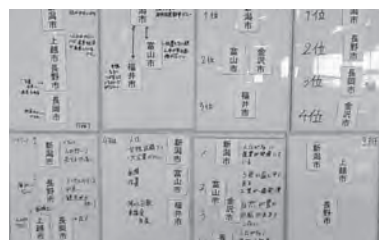
ステップ 2



既得の知識や得られた情報を基に自分の意見を形成します。

ワークシートやマグネットシートなどを活用し、自分の立場とその根拠を明確に主張します。

ステップ 3



マグネットシートなどを黒板に貼りながら意見交換を進めていきます。

論点や流れが分かりやすくなることで、意見交換が活発になり、個々の考えが深まります。最後にマグネットシートなどが黒板に残るため、学びの振り返りと構造化、自己化に役立ちます。

指定研究会情報

上越地区（柏崎・刈羽中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：既得の知識や読み取った情報を活用し、他者と共に主体的に追究する生徒の育成

自分たちの住む地域の経済活性化策について知るとともに、今後の消費生活について考えます。学習課題についての自分の立場とその根拠を明確にしながら意見交換することで他者とともに主体的に学びを深めていきます。

◇月 日：11月9日（金） ◇会場校：柏崎市立西山中学校

◇公開：1学級 3年 「公民」 授業者 下條 浩史

◇指導者：中越教育事務所 副参事・指導主事 西澤 貴志

社会 〈中越地区〉

問い直しの継続で、
課題を追究し続け、
思考力を高めます！



長岡市三島郡中教研 社会部
研究推進責任者(左) 長岡市立江陽中学校 高橋 信之
会場校担当(右) 長岡市立旭岡中学校 近藤 宏

根拠や他の意見に基づき、自分の考えを問い直すことで、意見の同異を比較できるので、批判的思考力が高まります。

手立て設定の理由

生徒が根拠をあげても自分なりに解釈できていなかったり、交流が根拠を述べ合う発表会で、意見が練り上がっていなかったりする課題がありました。右の手立てを講じることで、これらの課題を解決し、次の3つのメリットを生み出します。

手立てのメリット

- ① 社会的事象をより多面的・多角的に捉えられるようになります。(多面性・多角性)
- ② 根拠を明確にして意見を述べられるようになります。(論理性)
- ③ 自他の意見を「これでいいのか?」と問い直し熟慮するようになります。(反省性、省察性)

手 立 て

「問い直す」活動で、自分の考えを練り上げる。

ステップ1

多面的・多角的に捉えることが可能な単元を貫く課題設定

ステップ2

単元を通して価値判断を蓄積するシートの活用

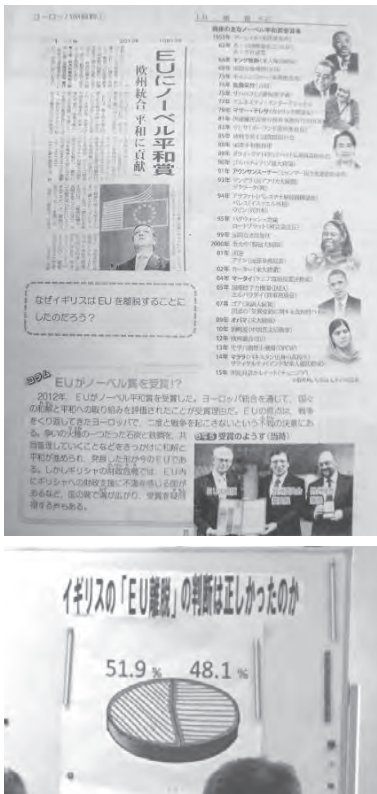
ステップ3

他と交流し、考えを振り返る場の設定

どのような生徒の姿を目指すか?

単元を通じたシートを活用して、仲間と意見交換しながら、自分の考えについて「本当にこの考えでいいのだろうか?」「なぜそう言えるのだろうか?根拠は何だろうか?」などと問い直し続ける生徒の姿を目指します。

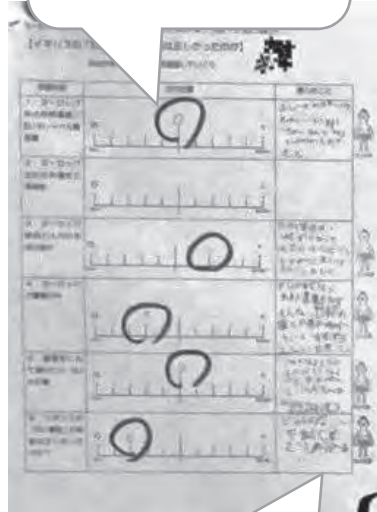
ステップ 1



現在なお賛否が分かれるEU離脱を取り上げます。その是非を問う単元を貫く課題を設定し、様々な側面や立場からメリット、デメリットを考え、追究意欲を高めます。

ステップ 2

中央を0とし左右に行くほど○×の度合いの強さを示す



数字の根拠を記述する

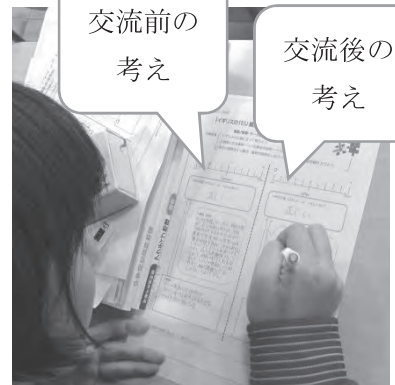
単元を通して、時間ごとにEUに対する価値判断を蓄積するシートです。自分の立ち位置を説明する根拠を整理しながら論理性を高められます。

ステップ 3



交流前の
考え

交流後の
考え



根拠となる資料を示し、自分の考えを説明します。他との議論を重ねて自分の考えを問い直し、練り上げます。

指定研究会情報

中越地区（長岡市三島郡中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：根拠に基づいて課題を追究し続ける生徒の育成

批判的思考力の向上をねらって、単元を通して「問い直す」手立てを講じます。日本地理の分野で、他と意見交流し、自分の考えを問い直す授業を公開します。
県中教研HPには、手立ての詳細や指導案等が閲覧できます。

◇月 日：11月28日(水) ◇会場校：長岡市立旭岡中学校

◇公 開：1学級 2年 「日本の諸地域」 授業者 近藤 宏

◇指導者：中越教育事務所 副参事・指導主事 西澤 貴志

社会 〈新潟地区〉

“思考の可視化”で 意見の根拠を明確にし、 論理的思考力を高める!



燕市・西蒲原郡中教研 社会部

研究推進責任者(左) 弥彦村立弥彦中学校 井上 北斗
会場校担当(右) 燕市立吉田中学校 鈴木 彰人

社会的事象について意見を形成する際に、その根拠を可視化し、意見との因果関係を明確にすると、社会的事象を順序立てて説明することができるため、論理的な思考力が高まります。

手立て設定の理由

社会的事象の背景や影響を探る際に、ヒントがない状態からスタートすると、独りよがりの根拠や、あいまいな根拠をもとにした学習になりがちです。

そこで、意見とその根拠との因果関係を可視化することで、次の2つの利点生まれ、上記の課題を克服できます。

手立てのメリット

- ① 可視化により、自他の意見の特徴や差異を明確にすることができ、思考を整理しやすくなります。
- ② 根拠と根拠との比較が容易になり、様々な視点からそれぞれの意見を検討し直すことができます。

手 立 て

思考の可視化により、意見と根拠の関係を明確にする。

ステップ1

根拠となるデータを整理する。

ステップ2

フレームワーク等を利用し、意見とその根拠との因果関係を明確にする。

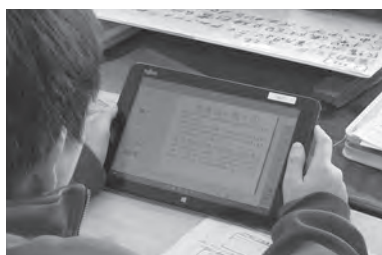
ステップ3

それぞれの意見を論理的に説明し、その妥当性を検討する。

どのような生徒の姿を目指すか？

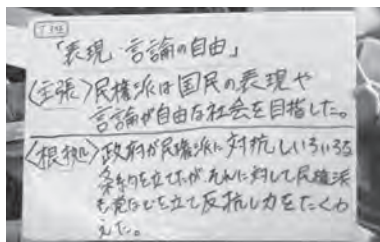
ある社会的事象の背景について説明したり、他者の意見に賛同や反対を示したりする場合に、根拠が明確でないと、「(何となく)~だと思ふ」という意見に終始し、学習が深まりません。そこで、明確なデータや既習事項をもとに、「AだからBだと思ふ」「AだからBで、だからCだと考える」と主張できる生徒の姿を目指します。

ステップ 1



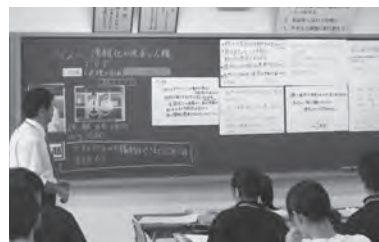
単元の前半で、社会的事象の背景や影響を追究するために必要となる、基本的な知識を習得・整理します。ここで習得・整理した知識は、ステップ2で意見を形成する際の根拠として利用されます。

ステップ 2



根拠をもとに、社会的事象についての意見を形成します。この際、フレームワーク等を利用し、意見とその根拠の因果関係を可視化することで、社会的事象を明確かつ論理的に説明できるようにします。

ステップ 3



小集団内で、形成した意見を互いに検討します。どの生徒も明確な根拠にもとづいた意見を形成しており、議論に深まりが出ます。また、思考の流れを可視化してあるので、順序立てた説明が可能になり、論理的な思考力が高まります。

指定研究会情報

新潟地区（燕市・西蒲原郡中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：根拠をもって意見を形成し、課題解決を図る生徒の育成

北アメリカ州の統合のあり方を追究します。単元の前半で、人種構成や農業、工業、文化などの視点から、北アメリカ州の統合の背景や影響についての意見を形成します。公開授業当日は、形成した意見を小集団で検討し、様々な視点から追究を行う予定です。

◇月 日：11月6日（火） ◇会場校：燕市立吉田中学校

◇公 開：1学級 1年「北アメリカ州」授業者 佐藤 一将

◇指導者：十日町市立南中学校 校長 若林 靖人

燕市立燕北中学校 校長 松井 淳

社会 〈下越地区〉

思考ツールで得た情報を 構造化し、自分の考えを 再構築させる !!



阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研 社会部
研究推進責任者(左) 胎内市立乙中学校 仙田 真紀子
会場校担当(右) 胎内市立築地中学校 高橋 ひろえ

思考ツールを使って情報を構造化し、グループで交流することにより、自分の考えを再構築することができます。

手立て設定の理由

生徒は、資料を読み取ることができても、得た情報の関連を考えることが苦手です。

そこで、思考ツールを使って情報を見える形にし、グループで交流することで、根拠をもって自分の考えを再構築することができると考えました。

手立てのメリット

- ① 身近な事象を取り上げることで意欲を喚起できます。
- ② 情報の関連を見える形にし、自分の考えを構築することができます。
- ③ 他の生徒の考えを取り入れながら自分の考えを再構築することができます。

手 立 て

思考ツールで考えを構築させる。

ステップ1

意外性のある資料提示で調べてみたいという意欲を引き出す。

ステップ2

思考ツールで情報を構造化し、課題に対する考えを構築する。

ステップ3

交流を通して自分の考えを再構築する。

どのような生徒の姿を目指すか？

自分の予想をもとに、思考ツールを使ってグループで交流し、他の生徒の考えを取り入れながら自分の考えを再構築し、文章化する姿が見られることを目指します。

ステップ 1



資料提示→課題設定

- ・既習事項と相反する事実を示す資料を提示することで、生徒から問いが生まれる。
- ・各自で予想を立てる。

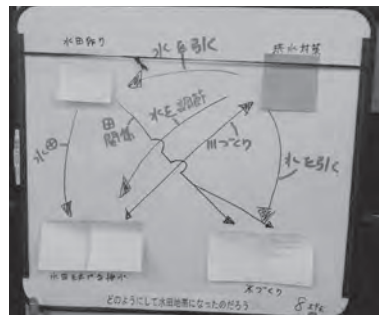
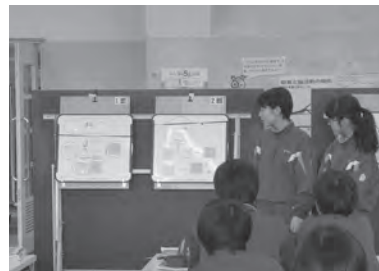
ステップ 2



情報収集→考えの構築

- ・個人での情報収集
- ・得た情報をワークシートにまとめる。
- ・思考ツールを使って、他の予想をした生徒とのグループで情報を構造化する。
→考えの構築

ステップ 3



深化→考えの再構築

- ・全体での発表をもとに、個人で自分の考えを文章にまとめる。
→考えの再構築

指定研究会情報

新潟下越地区（阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して自分の考えを再構築できる生徒の育成

生徒にとって意外性のある身近な地理的事象を取り上げ、その要因を調べます。そして、グループで思考ツールを利用して情報の構造化を図り、自分なりに説明できるようにします。

◇月 日：11月1日（木） ◇会場校：胎内市立築地中学校

◇公 開：1学級 2年「中部地方」授業者 高橋 ひろえ

◇指導者：十日町市立南中学校 校長 若林 靖人

理科

単元の指導計画を 練り直し，資質・ 能力を育てよう！



県中教研 理科部 全県部長
新発田市立豊浦中学校 石坂 均

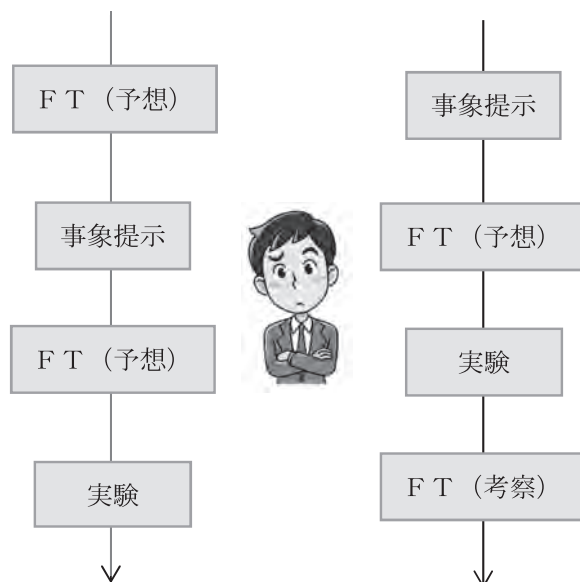
これまでの指定研究を通して，1時間の授業の中での様々な手立てを提案してきました。それらの手立てを生かしつつ，理科で目指す資質・能力を育てるためには，単元全体の指導構想をしっかりと練り直し，学習活動を計画的に位置付けた単元の指導計画を作ることが大切です。ここでは，単元を通した指導の構想を練る際のポイントを紹介します。

ポイント1 単元の「どこで」，「どのような学習活動を通して」，目指す資質・能力を育てるか明確にする。

これまでも，生徒の力を育てるため，単元全体を見通して指導計画はつくられてきました。しかし，限られた時数の中で「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を推進し，三つの資質・能力を確実に育成するためには，これまで以上にしっかりした計画が必要となります。

- ・どのような課題を示すか
 - ・教える知識は何か
 - ・学習の順序はどうするか
 - ・学習形態はどうするか
 - ・拡散や収束を図る場面をどこに入れるか
 - ・どのような教材を使用するか
 - ・それぞれの活動で育成する力は何か
- 等を考え，単元をどう構成するか（指導構想）を練った上で，単元の指導計画を作り，それ

に基づいて一時間の指導構想を立てることで，育成すべき資質・能力を確実に育てることができます。



ポイント2 単元の基礎となる概念や規則性を明確にする。

単元によっては、生徒にとって、単なる知識の取得のみとなる場合があります。右に紹介したように、単元全体の基本となる概念や規則性を授業者が意識して単元構成を考えることで、学習内容に連続性・必然性が生まれます。その結果、生徒の思考の流れがスムーズかつ焦点化され、理解が深まると同時に、思考も深めることができます。

右に紹介した「生物の体のつくりと働き」などでは、黒板に人間の体の図を貼り、本時がどの部分のどのような仕組みを学ぶかを明示することで、学習の流れを視覚化することもできます。

基礎となる概念や規則性の例

○化学変化と原子・分子

様々な化学変化を常に「原子・分子の世界」で考える。

○生物の体のつくりと働き（動物の場合）

体をつくる細胞一つ一つが生きるために、栄養分と酸素を運ぶ必要がある。それぞれを外界からどのように取り込み、細胞まで運ぶためのしくみを一つの流れとして学習する。

○気象とその変化

地球には水蒸気を含んだ空気が存在すること、そして、その空気が太陽の熱で暖められたりすることで様々な事象が起こることを気象現象と関連付けて考える。

理科 重点方針

目的意識をもって科学的に自然を調べたり、考えたりする力を育てる学習活動の展開に努める。

- 観察結果や実験結果の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味したりする学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。
- 他者との関わる活動や問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。
- 地域の環境や学校の実態を生かした自然体験や科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。

理科学び合い10

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画を立てている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連させて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連させて予想理由を検討している。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気付きを大切にされた観察・実験の工夫	生徒の気付きを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果にもとに結論を導き、生徒同士の意見交流を通して考えを深めさせている。

理科 〈上越地区〉

『どこでもフレーム』・
『鉄板フレーム』の活用で、
質の高い思考を促進！！



糸魚川市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 糸魚川市立能生中学校

阿部 信貴

会場校担当(右) 糸魚川市立糸魚川中学校

杉本 清隆

汎用性の高い『どこでもフレーム』、とっておきの『鉄板フレーム』を活用して論拠を明確にして話し合うことで、質の高い学び合いが継続ができ、新たな課題に向かう深い学びが促進されます。

手立て設定の理由

①自分の考えがもてない、自信がない ②文脈や関係性を整理できない ③根拠がない ④安易に正答だけを求め、考えようとしない ⑤学習知・経験知の不足で考える基礎がない…等の姿が課題でした。論拠をフレームで可視化することで科学的に探究する力が育ちます。

手立てのメリット

- ① 課題解決の必要性が生じ、学習意欲の原点到立つことができる。
- ② 自分の考えをもった上で自他の考えを比較・検討することができる。
- ③ 論点を視覚化・焦点化することで質の高い思考を促進することができる。

手 立 て

『どこでもフレーム』・『鉄板フレーム』で思考を促進する。

ステップ1 《事象提示・課題設定の工夫》

確かめたくなる課題を設定する。

主体的な学び

ステップ2 《探究の過程の工夫》

個で考える時間・学び合いの時間を設定する。

対話的な学び

ステップ3 《学習方法の工夫》

思考を促進し可視化するフレームを活用する。

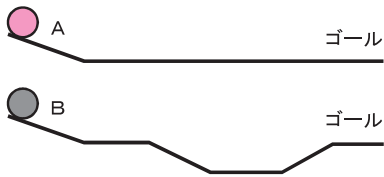
深い学び

どのような生徒の姿を目指すか？

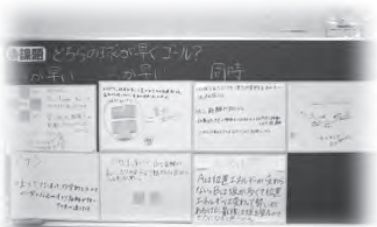
「電流は半分になる。その理由は…」 「電流は片方が多くなる。その理由は…」 既存の知識を活用し論拠をフレームに記述して説明する学習活動の中で、他者の考え方によって自己の見方・考えを吟味し、磨き上げ、深化する姿が見られることを目指します。

ステップ 1

どちらの球が早くゴールするか？



① Aが早い ② Bが早い ③同時



確かめたくなる課題を設定します。予想が立てやすく、意識や感覚、既有経験とはズレのある課題を提示し、達成動機を高めます。目的意識をもたせたうえで課題解決の見通しをもたせます。

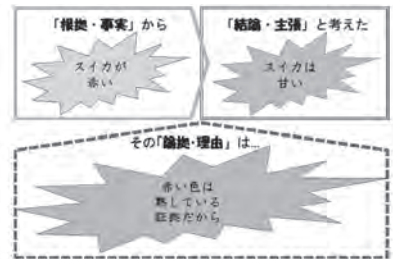
ステップ 2



4校
共通

個で考える時間と学び合いの時間を設定します。一人一人が自分の考えをもった上で説明し合うことで、互いの考えを比較でき、よりよい考えを検討できます。見方・考え方が豊かで確かなものになります。

ステップ 3



『どこでもフレーム』を活用します。結論・主張を支持する客観的な根拠・事実、その2要素の関係を裏付ける論拠・理由等、トゥールミン・ロジックの3要素を定型フレームで可視化することで思考を促進し、議論を焦点化します。

指定研究会情報

上越地区（糸魚川市中教研）糸魚川市教育研究発表会

◇研究主題：科学的に探究する力を養う指導の工夫
～思考ツールを使って論拠を示して話し合う授業～

『鉄板フレーム』は自然の事象を共通性・多様性や時間的・空間的な視点でとらえる生命・地球領域の学習で、『どこでもフレーム』は目に見えない現象を量的・関係的な視点や質的・実体的な視点で説明するエネルギー・粒子領域の学習で活用してきました。論拠を明確にして思考したり、グループで見方・考え方の違いを視覚化して議論したりするときの市内4校共通のフォーマットとなっています。今回は「電気の世界」の授業で思考を可視化するフレームワークを提案します。

◇月 日：11月7日(水) ◇会場校：糸魚川市立糸魚川中学校
◇公開：1学級 2年 「電気の世界」 授業者 植木 惇
◇指導者：上越教育事務所 学校支援第2課長 熊木 徹

理科 〈中越地区〉

3つの視点で 学びをつなぎ、 新たな知を獲得 !!



三条市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 三条市立第一中学校 京野 隆
会場校担当(右) 三条市立大崎学園 今井 奈奈

3つの視点（小学校とのつながり、既習とのつながり、他者とのつながり）で生徒が自ら学びをつなぐ授業づくりに取り組むことで、「学び合い」の質が向上し、新たな知の獲得につながります。

手立て設定の理由

予想やその理由を書くとき、生徒は直観的で思い付きの表現をすることが多く、学びがつながっていない場面が多く見られます。

小学校とのつながり、既習とのつながり、他者とのつながりの3つ視点で生徒が学びをつなぐことで、以下の3つの利点があります。

手立てのメリット

- ① 小中学校の学び、「見方・考え方」のギャップをゆるやかにできます。
- ② 生徒は既習の知識から自分なりに根拠のある考えをもつことができます。
- ③ 生徒は考えを修正したり、強化したりして個々の学びが深まります。

手 立 て

生徒が自ら学びをつなぎ、新たな知を獲得するための工夫

ステップ1（小学校とのつながり）

小中学校の学びの系統性を意識した単元の指導構想を立てる。

ステップ2（既習とのつながり）

既習の知識を使って、多様な考えをもてる課題を設定する。

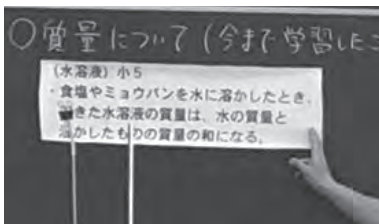
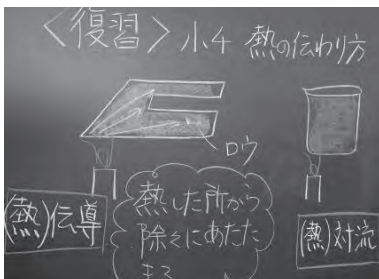
ステップ3（他者とのつながり）

学びを蓄積・整理する教材の活用により、学び合いを促進させる。

どのような生徒の姿を目指すか？

生徒が自然事象に問題意識をもち、その問題を既習の知識を根拠にして論理的に説明できるようになることを目指します。また他者との交流・検討により、自分の意見に更に付け足し修正するなど再思考することで、生徒の考えが深まり、一人ではもてなかった考えがもてるようになることを目指します。

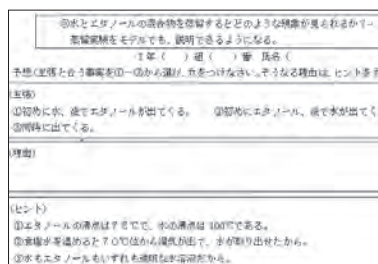
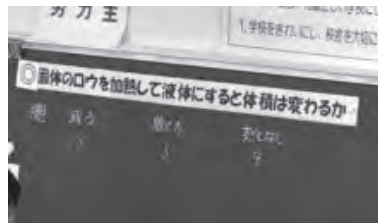
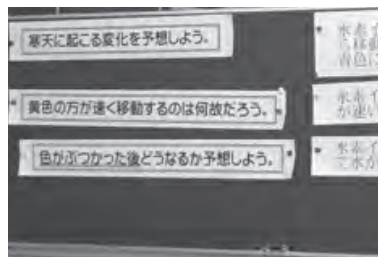
ステップ 1



学習指導要領や教科書等で、小学校での学び、特に「見方・考え方」の変容を確認し、授業プランを考えます。

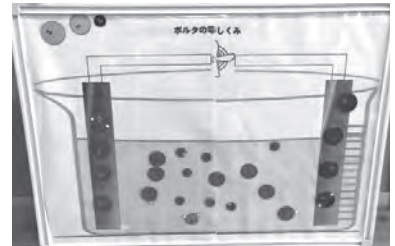
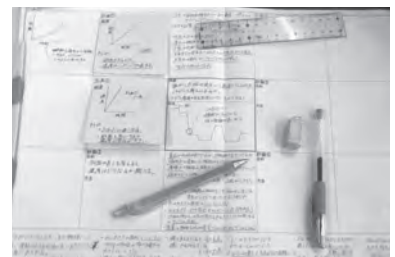
例えば粒子モデルは、段階的にどのように扱われてきたかを把握したうえで、単元構成や、適切なモデルの活用方法を考えます。

ステップ 2



「既習の知識を使って、多様な考えをもてる魅力的な課題」を設定して、生徒が主体的に取り組めるようにします。更に生徒が課題に対して、どのような「見方・考え方」をするかを意識した生徒目線の授業づくりをします。

ステップ 3



生徒が自分の考えを自信をもって発信し合える学び合いを促進できるように教材を工夫します。

例えば、一枚ポートフォリオに一時間ごとの学習内容をまとめ、学びを蓄積し、思考ボードやモデルなどで学びを整理しながら他者と考えを交流・検討する場を設けます。

指定研究会情報

新潟中越地区（三条市教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：既習の知識を活用し、主体的に問題解決に取り組む生徒の育成
～学びをつなぎ、新たな知を獲得する学び合いを通して～

化学電池の原理について、生徒がこれまでに蓄積した知識を活用し、イオンのモデルを操作しながら他者と交流・検討する予定です。その結果、自分の考えを強化、修正、構造化することで、生徒一人では生み出せなかった新たな知の獲得を目指します。

◇月 日：11月13日（火） ◇会場校：三条市立大崎学園
◇公 開：1学級 9年「化学電池」授業者 長東 貴英
◇指導者：加茂市立加茂南小学校 校長 佐藤 和彦
三条市教育委員会 統括指導主事 土佐 和久

理科 〈新潟地区〉

増えると思っただけが増えない！ 「なぜ？」を引き出し モデルで解決！



新潟市中教研 理科部

研究推進責任者(左) 新潟市立藤見中学校 間 英法
会場校担当(右) 新潟市立小新中学校 富山 浩喜

子どもの思いとズレのある事象提示から、モデル操作の学び合いを通して、事象を説明できるようになる新潟市の授業づくり実践。

手立て設定の理由

生徒が「あれっ?」「なんで?」「どうしてだろう?」と疑問に思うことを出発点とすることで、問題意識を高め、主体的・協同的な課題解決を目指します。

新潟市の授業づくりと県中教研の学び合い10を踏まえ、教師誰もがができる基本的な授業づくりを実践します。

手立てのメリット

- ① 気づきから問題意識が収束し、思考を活性化させます。
- ② モデル操作の説明で言語化を促し、学び合いを活発にさせます。
- ③ 既習内容を活用する検証問題で、理解を更に深めさせます。

手 立 て

子どもの思いとズレのある事象提示

ステップ1

問題意識を醸成する事象提示
生徒の「なぜ?」 = 「学習課題」

ステップ2

イオンモデルを操作し、課題に正対した「まとめ」の作成

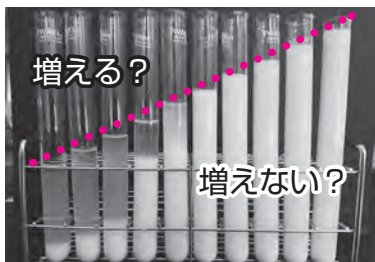
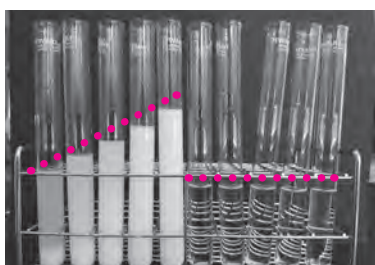
ステップ3

まとめを活用した検証問題で再度、学び合い

どのような生徒の姿を目指すか?

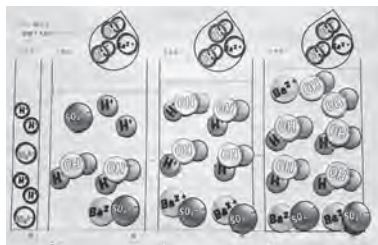
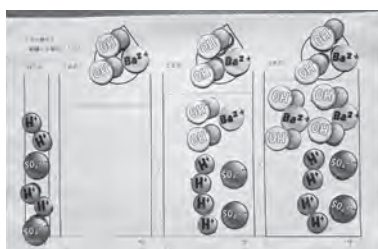
イオンモデル操作によるペア・班の説明活動を通し、イオン概念の理解を深めさせます。そして、全グループが「まとめ」で事象を説明できることを目指します。また、「まとめ」の内容を活用した検証問題を班内で学び合わせることで、より深い学びとより高いコンピテンシーの獲得を期待していきます。

ステップ 1



「どんどん増えるはず」という生徒の思いを生かしながら、「途中から増えなくなる」事象を提示させることで、問題意識をさらに高めます。塩の量的変化に注目させることで、科学概念を形成していきます。

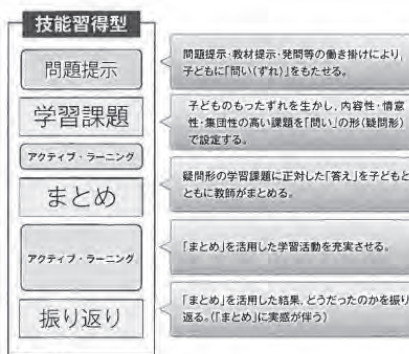
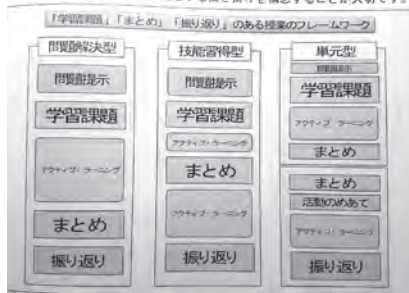
ステップ 2



一定量の硫酸に加える水酸化バリウムの量を徐々に増やしていくモデル操作を行います。水酸化バリウムの量を場合分けさせ、イオン概念の理解を助けさせます。モデル操作を通して、学び合いを誘発させ、事象の説明を目指します。

ステップ 3

○ どのフレームワークで授業を展開する場合でも、やはり、学習課題、まとめの三つを繋ぎさせ、対応する働き掛けを構想することが大切です。



新潟市の授業づくりの授業のフレームワーク「技能習得型」の授業です。後半に、まとめの内容を活用した検証問題を行います。班内の学び合いを再度行わせることで、既習内容の理解を更に深めていきます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：学び合いを通して、科学的な思考力・表現力を高める理科指導の工夫

生徒の問題意識を高めるために、「増え続ける」と思いがちな塩の生成量を教材としました。モデル操作を通して関わり合いを仕組み、イオン概念の理解を図ります。検証問題で再度モデル操作と説明活動によって、理解を深めさせます。

◇月 日：11月1日（木） ◇会場校：新潟市立小新中学校

◇公 開：3年「酸とアルカリ」 授業者 富山 浩喜

◇指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 眞田 和徳

※同日 新潟市中教研公開授業：1年「光の屈折」 授業者 広野 尚子

理科 〈下越地区〉

“学びの蓄積シート”で 考えをもち、議論し合う 授業の実現を！！



二市北蒲中教研 理科部

研究推進責任者(左) 阿賀野市立笹神中学校 小林 寿
郡市中教研副部長(中) 胎内市立中条中学校 星野 勝紀
授業公開者(右) 阿賀野市立笹神中学校 坂井 浩紀

予想や考察場面において，“学びの蓄積シート”を活用することで、これまでの学習内容を想起しながら自分の考えをもつことができます。他者の考えと比較しながら自分の考えを吟味できるので、思考の深まりが期待できます。

手立て設定の理由

既習の知識の未定着等の理由から、自分の考えがもてないと、思考場面で交流の機会を設けても考えは深まりません。

“学びの蓄積シート”を活用することで、生徒が既習の知識（課題解決のための根拠）を基に事象を分析し、解釈しようとする姿が期待できます。

手立てのメリット

- ① 自ら学習内容を振り返り、整理することで、知識の定着が期待できます。
- ② 思考場面で、根拠に基づいた考えを表し、交流する姿が期待できます。
- ③ より主体的に、目的意識をもって授業へ参加する姿が期待できます。

手 立 て

“学びの蓄積シート”を使って自分の考えをホワイトボード(WB)に表し、吟味する。

ステップ1

1時間の学習内容を振り返り場面で記述し、学んだことを蓄積する。

ステップ2

事象から見出した学習課題に対して、学びの蓄積シートを使い、考えをもち。

ステップ3

一人一人が可視化された他者の思考を基に自身の考えを吟味する。

どのような生徒の姿を目指すか？

提示された事象から課題を見出し、予想を立てる際に、既習の知識を根拠にしながら仮説を考える姿を目指します。さらに、一人一人がWBに表した仮説を互いに伝え合うことをとおし、自他の考えの異同を明確にしながら、どの考えが正しいのか議論し、自分の考えを強化したり、修正したりする姿を目指します。

ステップ 1

教師は、[学習課題]と[今日の学び]を記述する時間を設けた授業を継続します。
 〈例〉

直列回路と並列回路は、どちらが明るく光るだろう？

学習課題の共有後、[予想]、[実験] [考察]を行い、[学んだこと]を“学びの蓄積シート”に記述します。

3年生「運動とエネルギー」学びの蓄積シート

※このシートを使って仮説を立てたり実験をしたりする手がかりになっています。

学習日	学習内容(課題)	授業で学んだこと
	1時間ごとに学習内容(学習課題)を記述します。	1時間の授業で学んだことを生徒自身の言葉で記述します。

〈例〉

学習結果見直し	学んだこと
直列回路と並列回路は、どちらが明るく光るだろう？	同じ電圧だと、並列の方が明るい。つまり、並列回路の方が電流を流しやすい。

生徒は、各授業の終末に、学習課題に対して学んだことを自分の言葉でまとめます。

それを“学びの蓄積シート”に記入すると、単元を通して学んだことが一目で分かるシートができます。

ステップ 2

教師は、生徒が学んだことを活用しながら解決できる課題を準備し、事象を提示します。

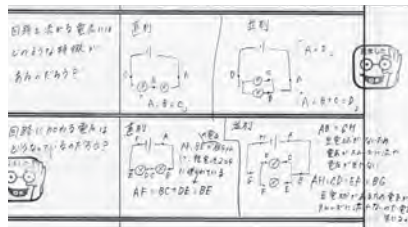
〈例〉

2Vの電圧で大きく動き回る制御不能のプロペラを提示。

↑これは、電流が流れ過ぎているからだ！電流を制御して安全なプロペラにしてみたい！

では、2Vで0.4Aの回路を作ってみよう。※最小抵抗は10Ωです。

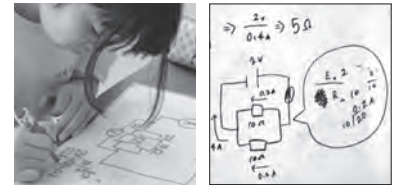
“学びの蓄積シート”を使いながら自分の考えを作ります。



生徒は、提示された事象から学習課題を設定し、課題解決の意欲を高めます。“学びの蓄積シート”から、課題解決の手掛かりとなる根拠を選びながら、自分の考えをWBに表します。

ステップ 3

教師は、WBを一人一人に配付し、生徒が自分の考えを表出し、互いに伝え合う時間を設けます。



生徒は、WBを使って他者と説明し合う中で、自分の考えを強化したり、修正したり、新たな考えを生んだり、広げたりすることが期待できます。

指定研究会情報

下越地区（二市北蒲中教研）理科教育研究発表会

◇研究主題：主体的に事象に向き合い、思考・表現しながら理解を深める生徒の育成
 ～学びの蓄積をもとに他と学び合う活動を通して～

“学びの蓄積シート”は、仮説や考察を考える際に、これまで得た知識や考え方を確認し、活用しやすくします。公開授業では、自作教材から見出した課題に対し、“学びの蓄積シート”を使い、他者と関わりながら仮説の検討を行います。

◇月 日：11月9日（金） ◇会場校：阿賀野市立笹神中学校

◇公 開：1学級 3年 「力学的エネルギーの保存」 授業者 坂井 浩紀

◇指導者：下越教育事務所 指導主事 若狭 陽一

阿賀野市教育委員会 指導主事 芋川 敏之

英語

生徒が「見方・考え方」を働かせる授業づくりを！



県中教研 英語部 全県部長
十日町市立松代中学校 重野 準司

「外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる」とは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、生徒が適切な言語材料等について自ら考え、判断し、表現することです。

生徒がこの見方・考え方を働かせる授業づくりのポイントを2つ紹介します。

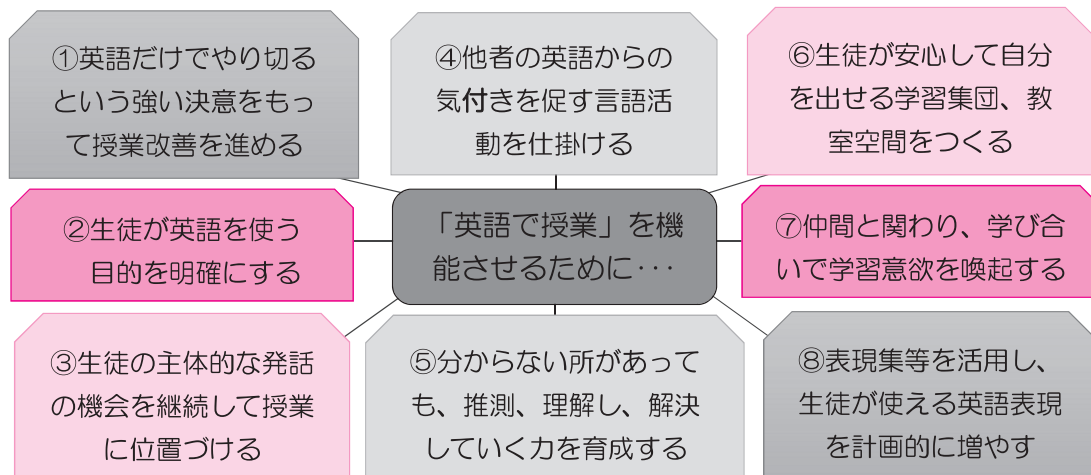
ポイント1 授業は英語で行う

新指導要領の大きな目玉の一つに「授業は英語で行うことを基本とする」とあります。これは「生徒が英語に触れる機会を充実させること」と「授業を実際のコミュニケーションの場面とすること」がねらいです。

まずは、教師自身が英語を日常の授業でコミュニケーションの道具として使っていくこ

と、そして、その姿を生徒に示すことが大切です。しかし、何より大切なことは、授業でできるだけ生徒に預ける時間をとり、学び合う中で、生徒が主体的に英語を使う時間を増やすことです。

私たちが「英語で授業」を機能させるポイントは、以下のとおりです。



ポイント2 授業に、その場で思考、判断、表現する活動を継続的に仕組む

これまで多くの教室で行われてきた言語材料ありきの活動をいくら繰り返しても、新指導要領が求めているコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、生徒が適切な言語材料等について自ら考え、判断し、表現する力を育むことはできません。

この前提に立って、私たちは計画的、継続的に帯活動等に生徒がその場で思考、判断、

表現する活動を位置付け、粘り強く指導することが必要です。そうすることで、生徒は徐々に、しかし、着実に即興で表現する力を身に付けていきます。

先の「英語で授業」のポイントに加えて、私たちが生徒に即興的に英語で伝え合う力を身に付けさせるポイントは、以下のとおりです。

- 正確さよりも伝えたい内容を重視した活動に継続して取り組みせ、定期テストやパフォーマンステストにおいても、同様の考え方で評価基準を設定し、評価する。(指導と評価の一体化)
- 即興で伝え合う活動を帯活動等に位置付け、相手を替えながら同じトピックで繰り返し伝え合わせる。
- 自身の進歩が自覚できるよう、言えなかったことが言えるようになる手立てを確実に施す。

〈引用・参考文献〉「英語で行う英語授業のルール&活動アイデア」胡子美由紀(2016)明治図書

英語 重点方針

- CAD-DOリストから単元の到達目標を設定し、無理なく目標に迫ることができるよう指導内容をバックワードで計画、指導する。
- 教科書本文の内容を材料とした領域統合型の言語活動を仕掛ける。
- 新たな領域「やりとり」について、まずは「実践すること」に重点を置いた取組を進める。
- 新指導要領の趣旨に即した授業改善は、チーム(英語科)で組織的に推進する。

英語 学び合い10

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	単元単位の目標・指導計画	単元単位の到達目標や指導計画を立てている。
③	生徒の興味・関心を喚起する課題設定	生徒の知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりする課題を設定している。
④	「練り合い」場面の設定	生徒が協働して表現方法を練り上げる場面を設定している。
⑤	個の学習の確保	生徒が自分の意見や考えがもてるよう「1人学びの時間」を十分確保している。
⑥	ペア・グループによる学習	生徒の実態や活動のねらいに応じた適切な学習形態(ペア・グループ)を意図的に選択している。
⑦	活動の手順・ルールの周知	活動の手順やルールを明確に提示している。
⑧	役割分担	全員が活動に参加できるように、個別の課題や役割分担を明示している。
⑨	4技能	4技能のバランスや4技能統合型の活動を設定している。
⑩	評価・振り返り	ねらいに即した振り返りの場면을計画的に設定している。

英語 〈上越地区〉

仲間と試行錯誤しながら 学び，考えや思いを 伝え合う活動へ！



上越市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 上越市立直江津中学校

神戸 邦子

会場校担当(右) 上越市立安塚中学校

池田 浩一

運用できる表現のストックを増やし，仲間と Trial and Error しながら学ぶことで，即興的な会話につなげます。

手立て設定の理由

Input から即興的な Output へつなげるためには，試行錯誤しながら英語を数多く使って見る必要があります。帯活動での十分な Input を土台とし，仲間とのやり取りを通して，使える表現を増強し，自分の考えや気持ちを適切に表現できる生徒を目指します。

手立てのメリット

- ・ 帯活動での仲間との継続したやり取りが使える対話表現の増強につながります。
- ・ 習得した表現の適切な使用体験が更なる英語学習の動機付けにつながります。

手 立 て

「人と関わりながら」学び，
表現力アップを目指す。

ステップ1

対話表現のインプット

ステップ2

仲間との関わりを通じた Trial and Error による対話表現の練習

ステップ3

実際の使用場面における適切な
アウトプット

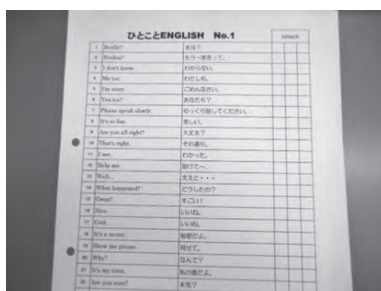
どのような生徒の姿を目指すか？

「やり取り」及び「即興性」を意識した十分な言語活動



仲間との対話表現の練習を通して得た表現や表現方法を生かし，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現できる生徒を目指します。

ステップ 1



- ・「対話表現集」を用いて意味や使い方を確認し、イントネーション、発音を練習します。
- ・「対話表現集」には簡単なあいさつ、あいづち表現、会話をつなぐ表現などが含まれます。

ステップ 2



- ・覚えた対話表現を仲間との「1分間トーク」の中で実際に使用してみます。
- ・相手の発話やフィードバックから使える表現を更に増やします。
- ・帯活動の中で繰り返し使用していく中で、自然な発話を目指します。

ステップ 3



- ・習得した対話表現やいろいろなツールを用いて、自分たちの考えや思いをアウトプットします。
- ・生徒の「伝えたい」が「伝わった！」になったことが更なる英語学習の動機付けにつながります。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：「自分の考えや思いを伝え合える生徒の育成」

帯活動での即興的なやり取りや対話表現練習の様子、及び習得した対話表現を実際の言語場面で使用する様子をご覧いただく予定です。

◇月 日：11月21日（水）

◇会場校：上越市立安塚中学校

◇公 開：2学級 3年 「PROGRAM 6」 授業者 池田 浩一

2年 「PROGRAM 9」 授業者 木花 一則

（Sunshine English Course 使用）

◇指導者：上越教育事務所 指導主事 野池 康一

英語 〈中越地区〉

その場で思考・判断・
表現する活動を継続して
授業に位置付け，生徒の
伝え合う力をUP !!



中魚・十日町市 中教研英語部

研究推進責任者(左) 十日町市立十日町中学校

信賀 悠次

会場校担当(右) 十日町市立まつのやま学園

前田 菖子

その場で思考・判断・表現する活動を継続的に授業に位置付け，他者との関わり等を通じて新たな語彙や表現に気付き，試行するサイクルを繰り返す中で，生徒は着実に即興で伝え合う力を伸ばすことができる。

手立て設定の理由

- 自分の思いを伝えたいという意思はあるが，正確に伝えようという気持ちが強すぎて，話すことに対して消極的な姿が見られる。
- 他者との関わりや対話から，表現の仕方や工夫を学ぼうとする姿勢が弱い。
- 教科書で学習した表現や工夫が定着せず，実際の会話の場面で活かされない。

手立てのメリット

- ① 間違いを恐れずに，自分の思いや考えを伝えようとする生徒を育成することができる。
- ② 教科書で使われている豊富な語彙や表現方法を，理解するだけに止めず，繰り返し使いながら定着させることができる。

手 立 て

その場で思考・判断・表現する活動を継続して授業に位置付ける。

ステップ1

CAN-DOリストを活用して，授業や単元のゴールを明確にする。

ステップ2

帯活動で，間違いを恐れず，即興で英語を話すことに慣れさせる。

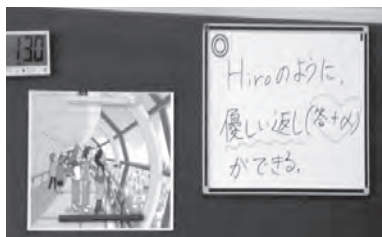
ステップ3

教科書を用いたReproduction活動で，生徒の表現力を高める。

どのような生徒の姿を目指すか？

自分が英語を使うことで他者の気付きになり，他者が英語を使うことで自分の気付きになるというコンセプトの下，生徒は教師による意味のあるスモールトークを聞いたり，生徒が互いに英語を聞いたり話したりする機会を継続的に設定することで，他者が使う英語から自身が使える英語表現に気付き，それを自分が使う表現に活かそうとする姿を目指します。

ステップ 1



単元末に英語を使って何ができるようになるかという「ゴール」を明示し、教師と生徒が学ぶ目的を共有します。単元の指導計画はバックワードで設計し、ゴールに迫るための活動をスモールステップで設定しながら、生徒が目的意識をもって学習に取り組みます。

ステップ 2



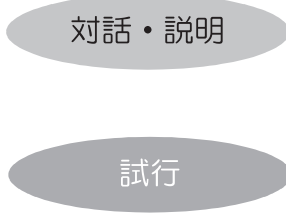
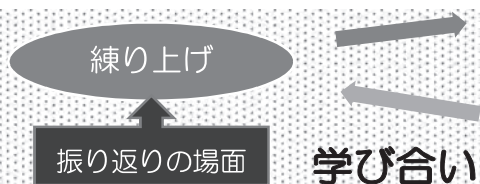
特定的话题について「マップピングによる内容の整理→ペアで1分間のモノローグ→相手を替えてのモノローグの繰り返し」という手順で行い、毎時間継続して即興で話す機会を設けます。その後、「言いたいけど言えなかった表現」に関して、他者と振り返る場面を設定します。

ステップ 3



教科書で学習した内容について、キーワードやイラストをヒントにReproductionする活動を設定します。その場で内容を説明(再現)する文を考え、自分の言葉で伝える練習を通して、即興で話す力や表現力を高めます。

即興力育成サイクル



指定研究会情報

中越地区 (中魚・十日町市中教研) 英語教育研究発表会

◇研究主題：自分の思いを即興的に伝え合う生徒の育成
～他者との関わりの中で気づきを促す手立ての工夫～

CAN-DOリストに示されたゴールに向かって、生徒同士が即興的に伝え合う場面を設定します。帯活動とリプロダクション活動の中で、生徒が自分の言葉で表現する姿とともにその表情にも目を向けていただけたら嬉しいです。

- ◇月 日：11月9日(金) ◇会場校：十日町市立まつのやま学園 (小中一貫校)
- ◇公 開：1学級 8年 「Lesson 5」 授業者 前田 菖子
- ◇指導者：十日町市立松代中学校 校長 重野 準司
十日町市教育委員会 指導主事 小林 豊

英語 〈新潟地区〉

全体で共有した評価基準を 活用し、段階を踏んだ タスクで力をつける!!



新潟市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 新潟市立宮浦中学校

小田 久美子

会場校担当(右) 新潟市立新津第一中学校

馬場 雅子

全員で共有した評価基準を活用し、段階を踏んだ十分なタスクを設定することで、評価の最終段階には「分かる」から「できる」へと確かな力が身に付きます。

手立て設定の理由

単元末に「何ができるようになるのか」を生徒が把握しないまま学習が進められたり、英語科教員が共通理解しないまま指導したりしている場面があります。

評価についての基準を全員で共有し、評価タスクに向けて段階を踏んだタスクを十分に行うことには次の3つのメリットがあります。

手立てのメリット

- ① 課題意識が明確になります。
- ② 求められている力が明確になります。
- ③ すべての生徒が自信をもって評価タスクに臨めます。

手 立 て

全体で共有した評価基準を活用できるように十分なタスクを設定する

ステップ1

【学習タスク】でのモデル分析と評価基準の共有。

ステップ2

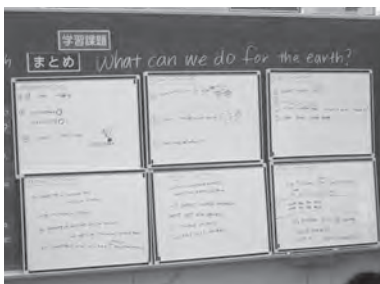
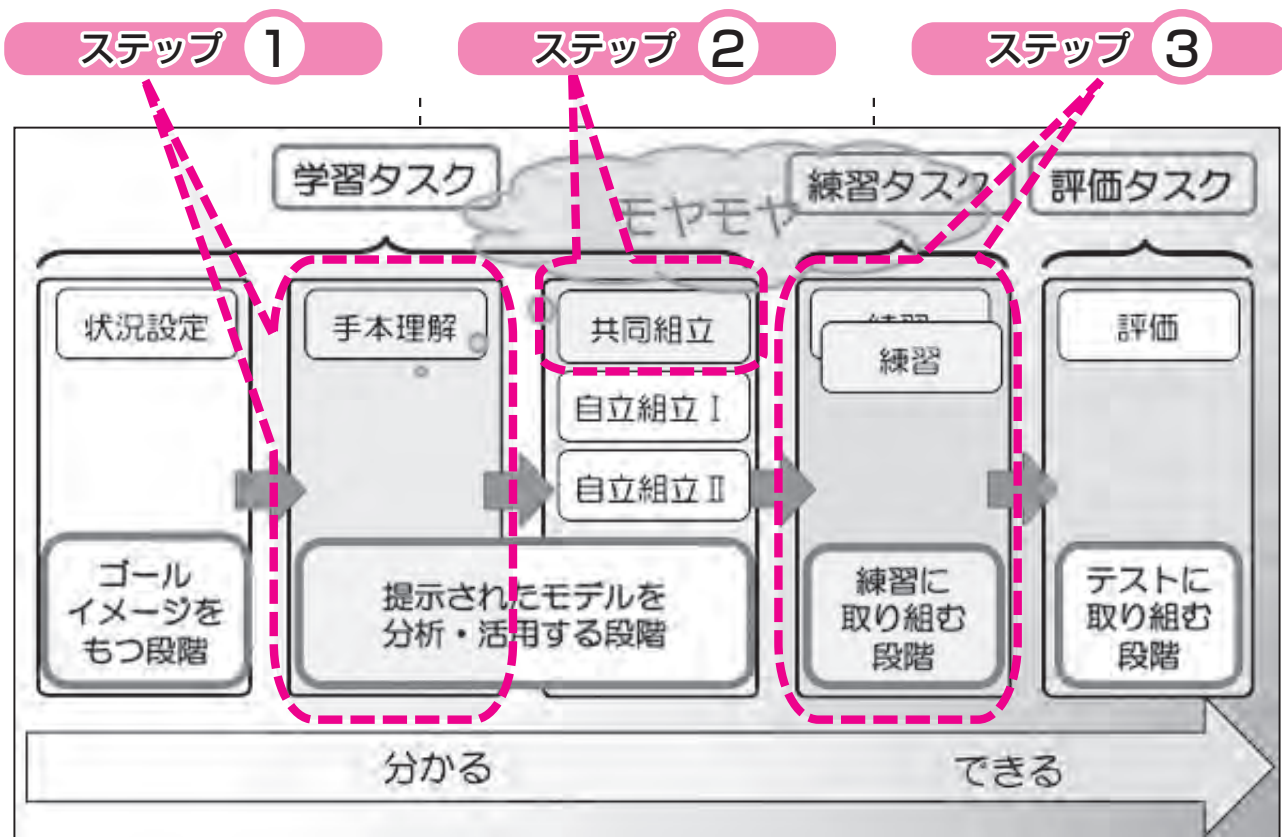
【共同組立】による習得。

ステップ3

【練習タスク】による活用。

どのような生徒の姿を目指すか？

生徒自らの気付きをもとに設定した評価基準をもとに、練習を積み重ねます。練習では、お互いの良い点や改善点を助言し合い、評価タスクに向けて練習に取り組む生徒を目指します。また、お互いに評価し合い、更に良いものを目指す学び合いの活動を通して、目的をもって主体的に学ぶ生徒を目指します。



「学習タスク」における「手本理解」の場面。【習得】
モデルを分析して、タスクをクリアするために必要な評価基準を整理します。



「学習タスク」における「共同組立」の場面。【習得】
全体で共有した評価基準をもとに全体で1つのタスクに取り組みます。



「練習タスク」における「練習」の場面。【活用】
パラレルなタスクにおけるパフォーマンスをより良いものにするために、全体で共有した評価基準をもとに生徒同士で評価・助言します。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：仲間とともに4技能をバランスよく高めていく生徒
～見通しをもって学び合う単元構成を通して～

当日は、即興的なSpeakingに焦点を当てた授業を公開します。
全員で共有した評価基準に照らし合わせ、単元のゴールに向けて練習タスクに取り組む様子を参観していただく予定です。

◇月 日：11月1日(木) ◇会場校：新潟市立新津第一中学校

◇公 開：2学級 1年 「Lesson 6」 授業者 横野 紀雄

2年 「Lesson 4」 授業者 ウィルソン 章子

◇指導者：新潟市教育委員会 指導主事 大岩 樹生

英語 〈下越地区〉

帯活動を継続的に行うことで、 生徒が「話したい」から 「話せる」ように！



新発田市中教研 英語部

研究推進責任者(左) 新発田市立第一中学校

酒井 知子

会場校担当(右) 新発田市立加治川中学校

猪俣 理恵子

習得させたい英語表現を帯活動で繰り返し練習して慣れさせることで、生徒は間違いを恐れず自分の考えや気持ちを即興で話せるようになります。

手立て設定の理由

英語が話せるようになりたいという思いはあっても、間違いを恐れ、尻込みしてしまう生徒も少なからずいます。そんな生徒の思いを具現化するために、まずは教師と生徒が目標を共有します。仲間との関わりを通し、習得した語彙や文法を帯活動で繰り返し活用していくことで定着を図ります。

手立てのメリット

帯活動を継続して行っていくことや、仲間と関わり合いながら練習を重ねることで、生徒は間違いを恐れずに自分の考えや気持ちを進んで話すことができるようになります。

手 立 て

他者との関わりを通して表現力を高める。

ステップ1

Can-Doリストを活用し、教師と生徒が授業や単元のゴールを共有する。

ステップ2

習得させたい語彙や文法を帯活動で繰り返し活用し、定着させる。

ステップ3

即興で表現できる場面を設定し、活動を工夫する。

どのような生徒の姿を目指すか？

既習事項から、その場に応じた適切な表現方法を用い、題材に対して仲間と助け合いながら特定のテーマに対する自分の意見を考え、伝え、また、相手の意見に対して間違いを恐れることなく即興で応答することができる姿を目指します。「英語で自分の意見が言えた。」「相手の意見に対して、即時に英語でコメントができた。」という達成感を味わってほしいです。

ステップ 1

【単元のゴール】

「Which is better, summer or winter?」という話題について、ディベート形式で意見を述べ合うことができる。



教師と生徒が授業や単元のゴールを共有します。「身近なトピックについてのキーワードやメモを準備すれば、ディベートで自分の意見や提案を述べることに役立つ」ことを伝えます。

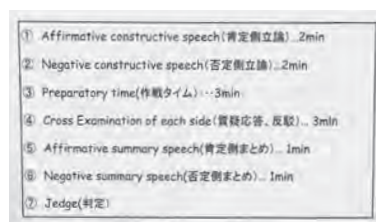
ステップ 2



単元に必要な表現を帯活動で練習し、活用できるようにします。パワーポイントで提示された画像について、相手にそれが何であるか英語で伝えます。また、ワードカウンターを用いて、与えられたテーマに沿って、英語で1分間話をし、何語発話できたかをカウントし合います。



ステップ 3



帯活動において、仲間とのコミュニケーションを通じて学んだ英語を活用しながら、グループでディベートに挑戦します。根拠を明確にししながら、自分の考えや意見を英語で説明します。また、相手の意見を聞いて、それについて即興で応答します。今回行うディベートは、用意した原稿を話す(Production)とやりとりをする(Interaction)を融合した活動です。

指定研究会情報

下越地区（新発田市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：自分の考えや気持ちを整理し、話すことができる生徒の育成
～主体的にコミュニケーションを図ることのできる学び合いの工夫～

統合的なタスクとして、社会問題や身近なトピックについてディベートを行います。与えられた課題について、自分の意見や提案を述べます。また、相手の発表を聞き、応答する活動です。ステップ2から3の流れを公開する予定です。

◇月 日：11月9日(金) ◇会場校：新発田市立加治川中学校

◇公 開：1学級 3年「Project 3」 授業者 猪俣 理恵子
渡邊 牧恵

◇指導者：五泉市立五泉北中学校 校長 辻川 英夫

音楽

音楽を楽しむ基礎の習得 +仲間との「学び合い・高め合い」 =音楽を愛好する心の育成！



県中教研 音楽部 全県部長
柏崎市立高柳中学校 笠井 克人

表現・鑑賞領域の学習活動は昔から音楽を楽しむための基礎です。歌唱、器楽演奏、創作、鑑賞は経験を積むことで力が高まり、追求することで達成感を味わえます。

そしてそれらは一人ではなく仲間と一緒に「学び合い・高め合い」のある授業を展開することで、かけがえのない体験になり、生涯、音楽を愛好することにもつながります。そのような音楽の授業のポイントを2つ紹介します。

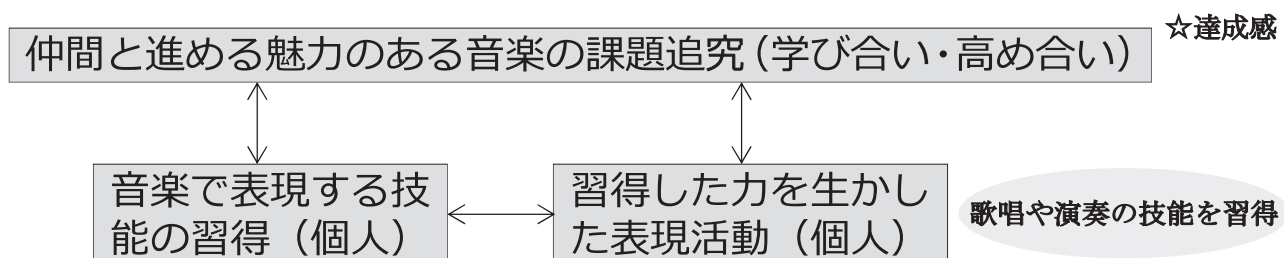
ポイント1 生徒が習得した音楽の技能を生かして、仲間と追求できる魅力のある課題を提示する。

生徒が音楽の授業に興味・関心をもって生き生きと取り組むためには、生徒が仲間と一緒に音楽を自ら追求したり表現したりして喜びを味わう場面を多く設定することが大切である。

まずは、そのための基礎的な音楽の技能（歌唱の力、器楽演奏の力、創作に必要な力、鑑賞したことなどを言葉で表現できる力など）を身に付ける授業を指導計画に位置付けて、技能の習得を目指す授業が前提となる。

次に、生徒がこのようにして習得することができた音楽の技能をもとに、自らが表現したい思いや意図に基づいて音楽の要素の働きを試行錯誤する場面を授業のメインに位置付けていくことが重要である。そのときに、仲間と一緒に「学び合い・高め合い」を可能にする課題であることが望ましい。

このように個人の技能の習得をもとに仲間と進める課題追究で音楽の活動の喜びが生まれる。



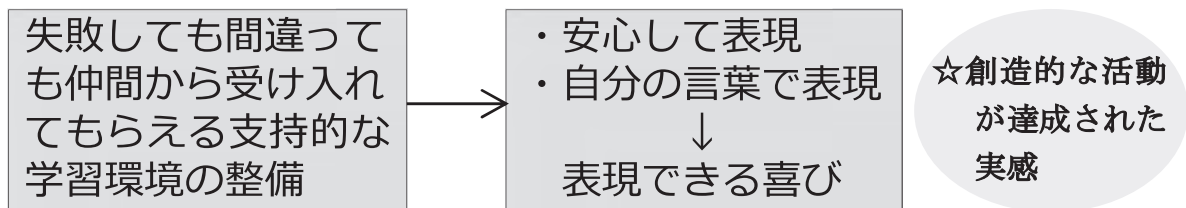
ポイント2

生徒が互いを認め合う支持的な学習環境を整備し、生徒が感じ取ったことや考えたことを言葉で伝え合う音楽の授業を展開する。

音楽の活動は創造的な活動である。安心して仲間と歌唱や器楽演奏に取り組むためには、お互いを受け入れ合う学習環境の整備が必要である。また、音楽の活動を深めるためには、仲間の演奏やCDを鑑賞して気付いたことや感動したことを自分の言葉で相手に伝えたり、受け入れたりする言語的な環境も必要である。言葉で感想を伝えたり新たな課題を発見したりすることが、合唱、合奏、創作

などの活動を継続させ、生徒自らが表現することの喜びを実感していくことにつながる。

音楽の授業において「生徒一人一人の失敗や間違いが仲間から受け入れられる支持的な学習環境」と「生徒が感じ取ったことや考えたことを生徒の言葉で伝え合う学習環境」が創造的な音楽の活動を展開するために大変重要である。



音楽 重点方針

生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる

- 音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。
- 音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。

音楽 学び合い10

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルールの周知	活動の見通しが分かるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント（評価シート等で）に即して活動を振り返る場面を設定している。

音楽 〈上越地区〉

仲間と音で試す + 言葉で意見を交わす 表現をより高める！



上越市中教研 音楽部

研究推進責任者(左) 糸魚川市立能生中学校

遠藤 好子

会場校担当(右) 上越市立雄志中学校

綱島 陽子

表現することで活動を終えるのではなく、音と言葉を介した学び合いで、生徒の新たな思いと音楽的な発見につなげます。

手立て設定の理由

一人一人が思いを共有し、仲間と音楽をつくり上げたり、音楽のよさを共感し合ったりするためには、音と言葉を介した学び合いの中から生まれる仲間と一緒に音楽を響かせる活動が有効です。音と言葉を介して仲間と知覚・感受・思考を交流する姿を目指します。

手立てのメリット

- ① 音や音楽を通じた深い学びが展開できます。
- ② 話し合いから課題を見付け出し、音や音楽による交流が生まれます。
- ③ ひとみを輝かせ、生き生きと音楽活動に取り組むことができます。

手 立 て

表現をより高めるために新しい課題を見出す

ステップ1

仲間と交流し、自分の課題を見付ける。

ステップ2

付箋等を活用し、課題解決の方策を共有する。

ステップ3

音を試し、音楽と言葉で交流し、表現を高める。

どのような生徒の姿を目指すか？

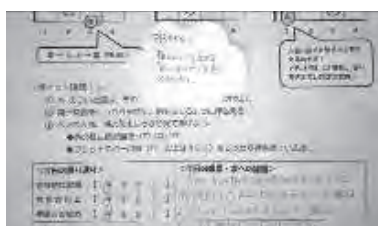
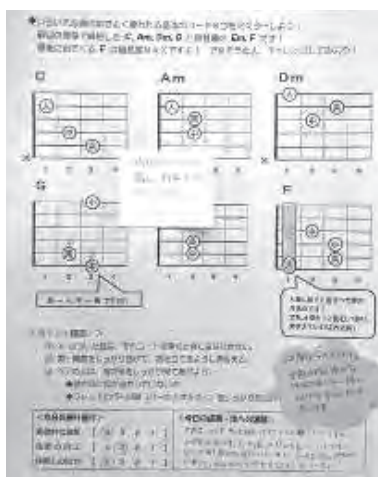
生徒が音楽を聴いて感動を味わったり、今まで気付かなかった音楽のよさや美しさに気付いたりする経験は、主体的に生き生きと音楽活動に取り組むことにつながります。生徒はそれを基に、音や言葉で交流を重ねながら仲間と思いを共有し、一人一人が新たな思いをもっていきます。そして、思い通りに音楽で表現したり、新しく気付いた音楽の価値を言葉で表現したりしていく姿を目指します。

ステップ 1



仲間と意見交換したり、お互いの発見を共有したりする場面を意図的に設けることで、「ここができていなかったんだ」「自分ももっと響く音で弾きたい」等の前向きな課題を見い出すことができます。

ステップ 2



ペアやグループ学習の中で「アドバイスタime」を設け、お互いの練習を見て気付いたことを言葉で伝えます。ワークシートに付箋で残しておくことで、自分の課題解決の方策が明確になり、次時の学習にスムーズにつなげることができます。

ステップ 3



パート練習では、自分たちが生み出した音を介して、よりよい表現の工夫を考えたり、考えたことを音楽で表現したりします。この活動を積み重ねることにより、表現の幅が広がっていきます。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）音楽教育研究発表会

◇研究主題：輝くひとみ あふれる思い 響き合う音楽

～主体的・協働的に音楽のよさを追求する生徒の育成～

授業でギターやドラムと出会うこと、仲間と楽器を用いて音を交わす経験を重ねることで、試行錯誤しながらより演奏技術を高め、よい表現を追求しようとする主体的な生徒の活動を引き出す授業展開を目指します。

◇月 日：11月28日（水） ◇会場校：上越市立雄志中学校

◇公 開：3年「クラスバンドでJ-POP」授業者 網島 陽子

◇指導者：上越教育大学 准教授 尾崎 祐司
上越教育事務所 指導主事 関原 るみ子

音楽 〈中越地区〉

鑑賞から表現への 移行の過程にある 気づきで表現力UP!!



長岡市三島郡中教研 音楽部

研究推進責任者(左) 長岡市立旭岡中学校

岡村 真由美

会場校担当(右) 長岡市立南中学校

上村 由紀子

学び合いを通して気づきを深め、自分の表現を追求します。

手立て設定の理由

郷土の民謡「長岡甚句」を教材として取り上げます。“音符の制約がない”、“自分の声(地声)で歌うことができる”など、自由に感じ、表現できる教材です。鑑賞で得た様々な気づきを基に、「個」と「集団」を連動させる手立てを講じることで、次の利点を生みだします。

手立てのメリット

- ① 声の高さを考慮したことで、表現活動がやりやすくなります。
- ② 4つの音源があることにより、気づきの幅が広がります。
- ③ 生徒の言葉と音楽的な言葉を結びつけることが学びにつながります。

手 立 て

「個」と「集団」を連動し、
学びを深める

ステップ1

声の高さを考慮したグループの
編成。

ステップ2

学びを深めるために個の気づきを
共有する場面の設定。

ステップ3

生徒の言葉と音楽的な言葉を結
び付けるカードの活用。

どのような生徒の姿を目指すか？

地元の長岡市に根付く民謡「長岡甚句」の多様な表現や感じ方を班の仲間と共有し、仲間と共に試行錯誤しながら「長岡甚句」にふさわしい発声で歌唱できる姿を目指します。

ステップ 1

「S1, 2」「A1, 2」
「T1, 2」「B1, 2」の
8グループ編成。合唱の
パート編成を基に、3～
4人のグループを作る。
* S = ソプラノ, A = ア
ルト, T = テノール,
B = バス



民謡は民衆の生活の中で生まれ、伝えられてきたものです。ルーツは同じであっても地域ごとに歌い回しが微妙に違っていたり、歌詞が違っていたりします。歌い手により、歌い出しの音の高さが変わるので、声の高さによってグループ分けを行い、声を出しやすいようにしました。

ステップ 2



4種類の音源の鑑賞
↓
個の気づきを記入
↓
班での共有・気づきの
広がり



男性(音のみ)・女性(音のみ)・男性(映像付き)・女性(映像付き)の異なる4種類の鑑賞から、多くの気づきを得ます。その気づきを班で共有し、さらに広め、深めていきます。

ステップ 3



「音程」「抑揚」「声の張り」
「表間・裏間」「拍」
などの音楽的な用語の
提示

+

声のゆれ → こぶし
張りのある声 → 地声
声の高さの変化
→ しゃくり
伸ばす声 → 産み字



[言い換える言葉の提示]

生徒の気づきと音楽的な用語を結びつけるフラッシュカードを使用します。そのことにより、生徒の学びをより深めます。

指定研究会情報

新潟中越地区(長岡市三島郡中教研)音楽教育研究発表会

◇研究主題:「学び合う授業づくり」

～音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業～

「長岡甚句」の鑑賞を通して感じ取ったものを班の中で共有し、民謡にふさわしい発声法や歌い方の特徴を生徒自身で見出していく授業展開を発表します。最後は、見出した特徴を取り入れた自分の表現で「長岡甚句」を歌い上げます。

◇月 日: 11月26日(月) ◇会場: 長岡市立劇場(小ホール)

◇公開: 長岡市立南中学校 1年 『長岡甚句』を歌おう 授業者 上村 由紀子

◇指導者: 魚沼市立広神中学校 校長 佐藤 孝子

音楽 〈新潟地区〉

箏で「私たちの 〈さくらさくら〉」 を表現しよう！



新潟市中教研 音楽部

研究推進責任者(左) 新潟市立新潟柳都中学校 熊木 勘治
会場校担当(右) 新潟市立小新中学校 高山 朋美

箏の様々な奏法などを生かしながら、自分たちの思い描く桜の情景を仲間とともに表現していきます。

手立て設定の理由

1年時では、箏の基本的奏法を習得しました。今年度は、箏の独特な奏法による音色や響きを生かしながら、自分たちの思い描く「私たちの〈さくらさくら〉」を表現します。

手立てのメリット

- ① 音楽表現のための手段を明確にします。
- ② 表現したい桜の情景や奏法を楽譜に可視化することで、相手に思いを具体的に伝えることができます。
- ③ 試行錯誤することによって、表現を追求することができます。

手 立 て

様々な奏法や、リズム、速度を工夫して表現

ステップ1

奏法による音色や、リズム、速度の違いによる効果を感じ取る。

ステップ2

思い描く桜の情景をどのように表現するか可視化し共有する。

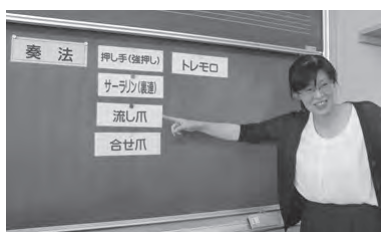
ステップ3

様々な奏法や、リズム、速度を試行錯誤しながら、思い描く桜の情景を表現していく。

どのような生徒の姿を目指すか？

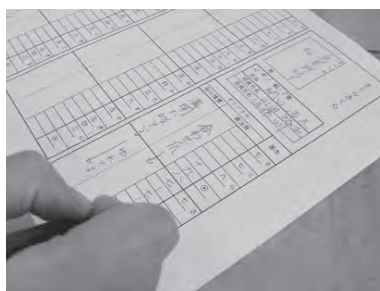
どのような奏法などを取り入れることで、自分たちの思い描く情景を表現することができるのか、グループで試行錯誤しながら「表したい自分たちの桜」を演奏する姿が見られることを目指します。

ステップ 1



思い描く桜を箏で表現するために、どのような奏法を使えばよいかプロの演奏家の映像を鑑賞することで、箏の奏法を想起させます。奏法による音色の違いやリズムや速度の違いによる効果について感じ取る場面を設定します。

ステップ 2



自分たちが思い描く桜の情景をどのような奏法を用いて表現することができるか書き留める楽譜を準備し、可視化し、共有します。



ステップ 3



言葉によるコミュニケーションの場面を位置付け、個やグループで感性を働かせながら、試行錯誤を繰り返しながら思い描く情景に一番近い表現を追求します。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）音楽教育研究発表会

◇研究主題：感性を働かせ、仲間と共に関わり続ける生徒の育成

1年時に学習した箏の基本的奏法を生かして、今年度はグループごとに自分たちの思い描く桜の情景を表現するためにはどのような奏法を用いると良いのか、感性を働かせ仲間と試行錯誤しながら、「私たちの〈さくらさくら〉」を表現していきます。

◇月 日：11月29日(木) ◇会場校：新潟市立小新中学校

◇公 開：2年 「箏の様々な奏法を用いて「私たちの〈さくらさくら〉」を表現しよう」
授業者 高山 朋美

◇指導者：新潟市教育委員会 指導主事 大場 雅夫

音楽 〈下越地区〉

イメージから音へ 音から音楽へ ICTの利活用で 創造力・表現力を育成



阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研 音楽部

研究推進責任者(左) 胎内市立築地中学校

遠藤 明子

会場校担当(右) 阿賀野市立安田中学校

佐藤 真理子

ICTの利活用方法や設定条件を工夫することにより、イメージを音から音楽へと繋げ、音楽をつくる喜びを実感することで、主体的な学びの姿を実現し、創造力・表現力を養うことができます。

手立て設定の理由

創作活動となると、「ただ音符を並べてみた」、「うまくまとまらない」等、音楽をつくる喜びを味わわずに活動を終えてしまう生徒もいます。

これらを解消するために、ICTを利活用し、思いや考えから音や音楽をつくる活動を体験させ、主体的に表現する姿を目指します。

手立てのメリット

- ① FTによりイメージを膨らませ、イメージと音を結び付けることができます。
- ② 課題や条件を明確にすることにより、適切な音の選択や音を組み合わせることができます。
- ③ 新たな気付きから、より客観的に自分たちの作品について考えを広げ、表現する力が高まります。

手 立 て

効果的なICTの利活用方法や設定条件の工夫により創造力・表現力を育成する

ステップ1

課題を共有し、イメージを音につなげます

ステップ2

ICT利活用の条件を明示し、音から音楽へと形にします

ステップ3

聴き合いを通して、自分たちの求める音楽と向き合い、作品に新たな気付きをもちます

どのような生徒の姿を目指すか？

イメージを膨らませることにより、音楽と向き合う土壌をつくります。その上でICTの設定条件を明示し利活用することで、主体的に音楽と関わる姿を目指します。また、ICTを利活用することで、音楽を介して他者とのコミュニケーションが活性化され、より自分たちのイメージに即するものを追究する姿、そしてものを創造する喜びの姿が期待できます。

ステップ 1

イメージ作り(土台)

郷土について学び、基本的な情報を理解した上で、課題に適したイメージマップを考え、曲作りの根本となるイメージの土台を築きます。



イメージの共有

グループで自分のイメージ(曲調、描写場面等)を伝え合うことにより、より曲に対するイメージを膨らませます。



曲作りの基礎

(条件の明確化)

言葉の句切り方、メロディーラインの工夫、リズムの長短等曲作りに関してのルールや方法を提示し、曲作りに入ります。

ステップ 2

ICTの活用

最初にタブレットに歌詞を打ち込むことにより、基本的な音楽のフレームを決めることができます。これを基に、言葉の抑揚に合わせたリズムの調整、また、イメージに合わせた音域の調整(メロディーライン作り)等曲作りを進めることができます。

これらによって音楽をつくる喜びを体験し、主体的な学びの姿が期待されます。



イメージとの比較

(課題追究)

作った曲をすぐに音として聴くことができるので、イメージと照らし合わせ、修正し、よりイメージに即した音楽をつくることができます。試行錯誤を繰り返すことで、創造力や論理的思考力を養うことができます。

ステップ 3

聴き合いによる

新たな気付き

(生徒同士の対話)

互いに聴き合うことで、冷静に自分たちの音楽と向き合うことができたり、他のグループとの作品と聴き比べたりすることができます。

また、ICTを活用することで、自分たちの作品に自信をもち、根拠をもって表現する姿が期待できます。

イメージ

イメージ ↓ の共有

条件設定

ICT

◇イメージとの比較

◇聴き合いによる

客観的評価

主体的な学び ↓ 学ぶ喜び

創造力・表現力の育成

指定研究会情報

下越地区(阿賀野市胎内市北蒲原郡中教研)音楽教育研究発表会

◇研究主題: 学び合いを通して考えを広げ、表現力を育てる指導法の工夫

創作活動で郷土のPRソングを作ります。ICTが自分の思いや考えを音や音楽に繋げるツールとして、また、音楽を聴き合う中でのコミュニケーションのツールとして、有効的なICTの活用方法を模索します。

◇月 日: 11月22日(木)

◇会場校: 阿賀野市立安田中学校

◇公開: 1年「安田PRソングをつくろう」 授業者 佐藤 真理子

◇指導者: 新潟市教育委員会 指導主事 太田 三平

阿賀野市教育委員会 指導主事 三間 強

学校保健

生涯を通じて心も体も健康でいてほしいと願いを込めた健康教育!!



県中教研 学校保健部 全県部長
村上市立朝日中学校 相馬 明子

何をするにも心と体が健康であることが一番大事です。

体が、そして心が大きく変わる思春期において、生徒一人一人がより良く生きるための健康課題を自分自身のこととして捉え、日常の実践につながるような健康教育を紹介します。

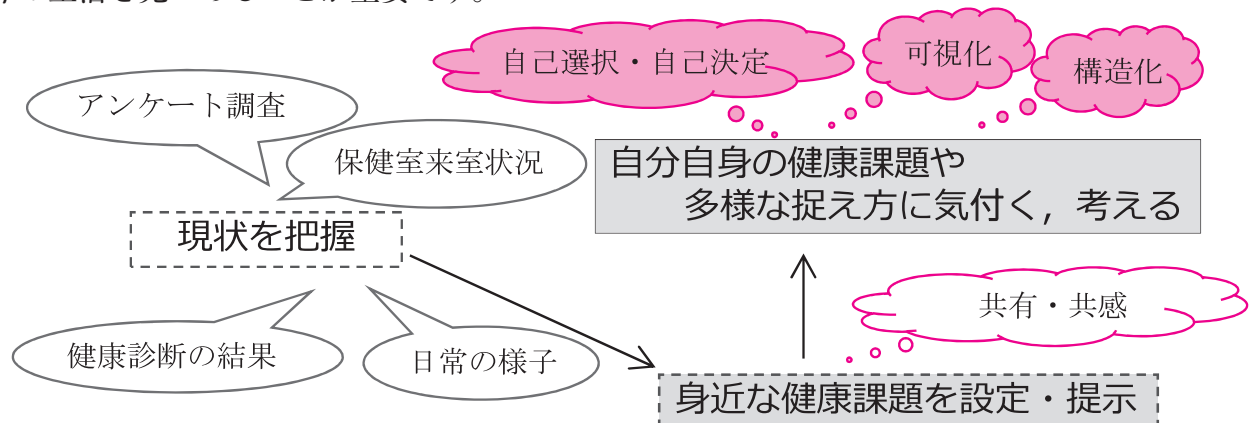
ポイント1 生徒が主体的に自己選択・自己決定できるような健康課題を設定します。

日々、健康を意識しながら学校生活を送っている生徒は、どのくらいいるのでしょうか。

ほとんどの生徒が保健室を訪れることもなく、毎日を過ごしています。

しかし、このような生活が一生継続とは限りません。5年先、10年先、20年先…と生涯にわたり心も体も健康でいるためには、今の生活を見つめることが重要です。

今の生活の中で、自身の健康課題に気付かせるために、生徒にとってより身近で、共感できる事例や課題を提示することが大切です。それにより、生徒が今の自分の状況と共感・共有し、より良い健康生活が送れるような解決策と実践力を身に付けてほしいと願います。



ポイント2

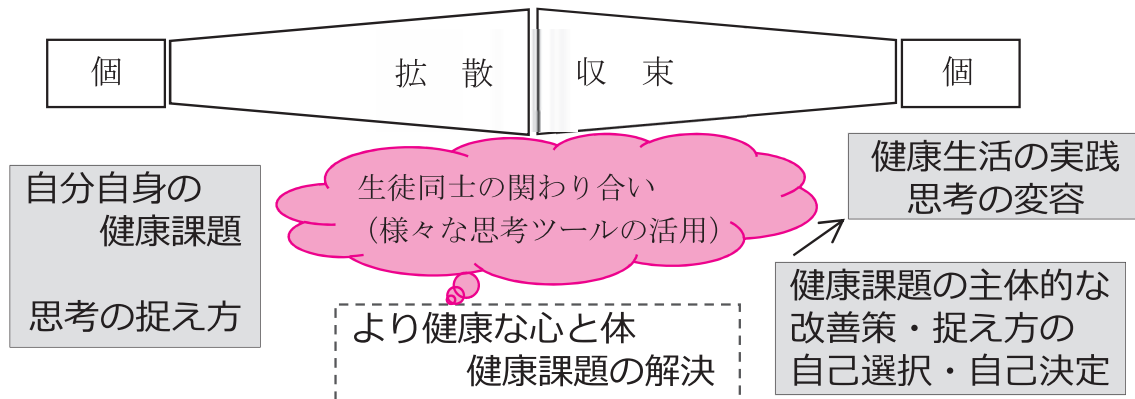
生徒同士の関わりによって、より健康的な生活が送れるように改善策を自己決定し、実践へと結びつけられる学び合いの場を設定します。

自分自身の健康課題の解決や思考の捉え方について、より良い改善策を見つけるために、他者の意見を聞くことは大切なポイントです。

同じような健康課題や思考の捉え方をもった生徒同士が互いに関わることにより、安心感が得られます。一方、異なる健康課題や思考の捉え方をもった生徒同士が互いに関わる

ことにより、自分にはなかった新たな発見が得られます。

生徒同士の関わりの中で、様々な思考ツールを活用することにより、多様な考えが生まれ、生徒自身の健康課題の解決や改善につながっていきます。そして、自分にとってより良い健康生活の実践力が身に付くように継続的に支援していくことも重要です。



学校保健 重点方針

生きる力を育む健康教育を推進する

- 連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。
- 生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。

学校保健 学び合い10

①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気付くことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わり合いを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちをもたせている。
⑥	実践化への意欲付け	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちをもたせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。

学校保健〈上越地区〉

『いのちの大切さ』を
がん教育で学ぶ！
思考ツールで主体的な
学びを！！



上越市中教研 学校保健部

研究推進責任者(左) 上越市立直江津中学校 池上 薫
会場校担当(右) 上越市立吉川中学校 相澤 圭子

授業や体験活動で、思考ツールを使い自分の考えを整理します。グループ活動で仲間と共有したり、交流したりすることで考えを深め、自他の命を大切にできる力を育てます。

手立て設定の理由

グループ活動の話し合いの場面では、積極的に意見を述べる生徒に流されたり、意見が少なく話し合いが停滞したりすることもあります。

この話し合いの場面で“思考ツール”を使うと、次の3つの利点があります。

手立てのメリット

- ① 自分の考えを付せん等には書き、出した意見を整理すると可視化・構造化されます。
- ② 仲間と話し合いながら、考えを共有したり、深めたりできます。
- ③ 自分の中で考えが整理され、自己決定できるようになります。

手 立 て

思考ツールを使い、仲間との交流で学びを深める

ステップ1

付せんに自分の考えを書くことで、思考を可視化し、整理する。(可視化)

ステップ2

思考ツールを使い、仲間と交流しながら、自分の考えを深める。(共有・構造化)

ステップ3

振り返る場を設定し、自分の考えを明確にし、まとめる。(自己決定)

どのような生徒の姿を目指すか？

自分の考えを書いた付せんをホワイトボード(思考ツール活用)に貼りながら可視化し、グループで出た意見を整理します。話し合いながら出た意見に見出しを付け、共有します。課題に対し、「なぜ、それが命を守るために大切なのか」その理由も考えながら話し合う姿を目指します。

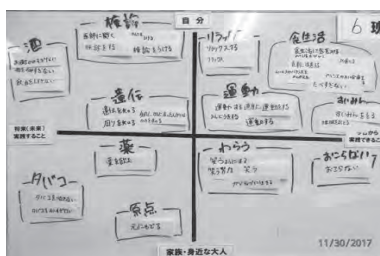
ステップ 1



「がんから自分の命を守るためにできることは何か」について、自分の考えを付せんに書き、「思考の可視化」を行います。(1枚に1つの意見)リーダーは同じ意見同士をまとめ、意見交換しながらホワイトボードに貼っていきます。同じ意見同士に見出しを付け、共有します。

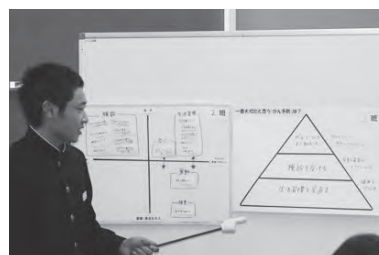
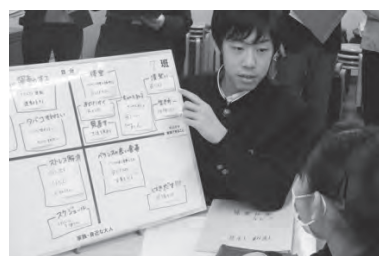
少人数グループ(4人)にして、活発に意見交換しやすくします。

ステップ 2



思考ツール①座標軸(縦軸に自分と家族、横軸に現在と将来)に、出てきた意見を話し合いながら配置し、見出しを付けます。②課題への対策を話し合い、ピラミッドに大切だと思うこと3つとその理由を書くようにします。

ステップ 3



ワールドカフェで、他のグループの発表を聞き、意見を持ち帰り、考えを練り上げます。全体で2つのグループに発表させ、共有します。

ワークシートに、自分が実践できることをまとめます。

指定研究会情報

上越地区(上越市中教研)学校保健教育研究発表会

◇研究主題: 自他を大切にできる生徒の育成を目指した健康教育のあり方
～がん教育を取り入れた「いのちの大切さ」を学ぶ活動を通して～

がん教育を保健体育で2時間、学活1時間で計画しています。保健体育の1時間目は、がんについての基礎知識を学習します。2時間目は、「がんから自分の命を守るためにできることは何か?」について、思考ツールを活用し、主体的・対話的に学び合い、自分のこととして考える授業実践を予定しています。

◇月 日: 11月8日(木) ◇会場校: 上越市立吉川中学校

◇公 開: 1学級 3年 「私ができるがん予防」 授業者 教諭 樋口 隆
養護教諭 相澤 圭子

◇指導者: 上越教育事務所 指導主事 高瀬 育子

学校保健 〈中越地区〉

よりよい自己決定へと 導き、実践による学びを 支援する保健指導を！



魚沼市中教研 学校保健部

研究推進責任者(左) 魚沼市立湯之谷中学校

佐藤 ひとみ

会場校担当(右) 魚沼市立守門中学校

高木 朱海

話し合いによって自己の課題を改めて見つめ直し、自分の考えを広げたり深めたりして、解決策を自己決定します。自己決定したことを実践できるように継続して支援し、自律的な健康管理能力を育てます。

手立て設定の理由

与えられた課題にはよく取り組むが、自律的に健康管理ができていたとは言い難い生徒の実態があります。

生徒の主体的な学びを促し、自己決定による実践ができる生徒を育てたいと考えました。

手立てのメリット

- ① 自分達の課題として共有し、協働して取り組む意欲を引き出します。
- ② 話し合いによって生じた自分の意識の変容や新たな気づきを生かし、よりよい自己決定へと導きます。
- ③ 自分で決めて行動する経験の積み重ねが自律性を育てます。

手 立 て

事前指導、本時、事後指導のプロセスで行う保健指導

ステップ1

アンケート調査や事前指導で必要感のある課題を設定する。

ステップ2

オープンクエスチョンとフレームワークで、課題の背景を追究し、改善策を自己決定する。

ステップ3

生徒と養護教諭、生徒同士の対話を通じて、実践して振り返り、さらなる改善へとつなぐサイクル(PDCA)を支援する。

どのような生徒の姿を目指すか？

話し合い活動を通じて、課題の背景を掘り下げ、新たな視点で自分の考えを広げたり深めたりして、具体的な解決策を自己決定します。自己決定したことを実践し、振り返ってさらなる改善へとつなぐサイクルを継続していこうとする姿を目指します。

ステップ 1

<何を提示するか>



健康生活に関するアンケートや授業の事前アンケートなどから、実態を把握し、生徒にとって必要感のある課題を設定します。

（事前アンケート結果） 普段の健康管理は？

十分できている	まあまあできている	できていない	まったくできていない
1人	19人	4人	0人



生徒の主体的な学びとなるように、アンケート結果や課題について学級全体で共有します。

ステップ 2

<どのように話し合わせるか>



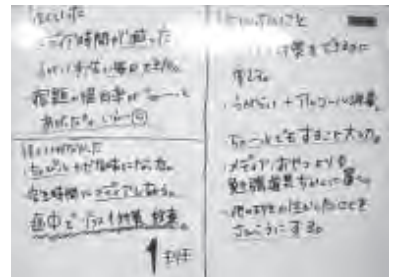
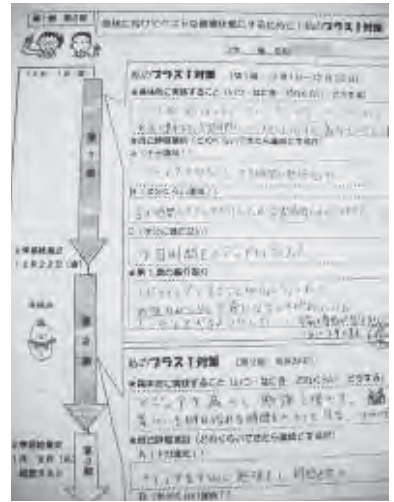
ルールに基づいた話し合いの場で、オープンクエスチョンを活用し、自己や他者の考えや思いを、聞いて引き出すことで個々の新たな気づきを促します。

状況は	→	→	→
Keep	Try		
Problem			

話し合いの内容に応じてフレームを工夫して、思考を促したり、整理しやすくしたりします。

ステップ 3

<どのように支援するか>



自己決定したことを実践し、振り返ってさらなる改善へとつなぐPDCAのサイクルが継続できるように、担任と養護教諭がカードを用いて支援します。

また、生徒同士でも支援し合えるように、フレームを用いた話し合いを行います。

指定研究会情報

中越地区（魚沼市中教研）学校保健教育研究発表会

◇研究主題：健康な生活を送るために、自分の生活を見つめ、考え、行動する生徒の育成
～自律性を育てる保健指導の工夫～

自己の健康管理の現状を見つめ直し、課題の原因や解決策について互いの考えを聴き合い、引き出し合うことで、新たな視点で自分の考えを広げることができるようにします。
解決策を具体的に自己決定させ、自律的な健康管理のPDCAサイクルへとつなぎます。

◇月 日：11月1日（木） ◇会場校：魚沼市立守門中学校

◇公 開：1学級 2年 授業者 養護教諭 高木 朱海
担任 高橋 直子

◇指導者：魚沼市立湯之谷小学校 校長 伊佐 貢一

学校保健 〈新潟地区〉

多様な捉え方を出し合う
ことで、新たな視点に
気付き、心の回復へと
つなげる



新潟市中教研 養護部

研究推進責任者(左) 新潟市立葛塚中学校

坂井 妙子

会場校担当(右) 新潟市立亀田西中学校

青木 康子

“同心円チャート”で思考を可視化し、多様な捉え方を出し合うことで、捉え方の違いによる感情の変化に気付かせ、心の回復につなげる力を育みます。

手立て設定の理由

事例に対する生徒の捉えと感情を自由に考えさせたり、書かせたりすると煩雑で拡散した形になりやすく、本時の学習のねらいに迫りにくくなります。

そこで、生徒一人一人の捉え方と感情を“同心円チャート”で可視化し、構造化することで生徒の気付きを促します。

手立てのメリット

- ① 身近な事例にすることで自分事として考えやすくなります。
- ② 捉え方や感情を可視化し、検討しやすくなります。
- ③ 自分の考えだけでなく、多様な捉え方に気付くことができます。

手 立 て

“同心円チャート”を使い多様な捉え方を考える。

ステップ1

身近な事例を設定する。

ステップ2

捉え方とそこから生まれる感情を可視化する。

ステップ3

グループでネガティブな感情を変える捉え方を検討する。

どのような生徒の姿を目指すか？

同心円チャートにグループのメンバーの多様な捉え方と感情が貼られ、可視化されます。その中でも特に誰でも陥りやすい不安や心配、怒りなどネガティブな捉え方に注目させ、早くその状況を脱するため、ポジティブな捉え方や感情に変えようとする活発な話し合いや、関わり合いができる姿を目指します。

ステップ 1

〈事例〉

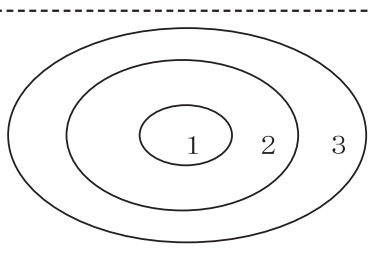
Aさんは仲の良い先輩と廊下ですれ違ったので「こんにちは」と挨拶をしましたが、返事をしてもらえませんでした。その後、先輩に会ったときも態度がいつもよりよそよそしくなったように感じます。

学校生活において、人間関係で困り感を抱きそうな事例にします。

生徒が考えた捉え方や感情からは、同じ出来事でもネガティブになる場合とそうでない場合など多様な考えがあることに気付かせます。

ネガティブな捉え方に陥らないためにはどうすればよいか考える方向へ働きかけていきます。

ステップ 2



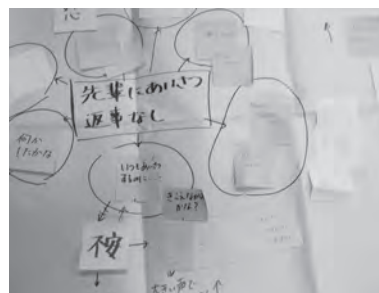
- 1 事例
 - 2 捉え方
 - 3 感情
- ※ 2, 3は生徒が書いた付箋を貼る

〈予想される反応〉

- *捉え方
怒らせた?, 無視?, 聞こえなかったかも
- *感情
不安, 怒り, 心配, 無関心

グループのメンバーが付箋に書いた個々の捉え方を同心円チャートの「2」のゾーンに貼り、多様な捉え方があることに気付かせます。その後、捉え方から生まれる感情をグループ内で出し合います。

ステップ 3



同心円チャート内のネガティブな捉え方に注目させ、グループ内で別な捉え方があるか話し合い、付箋に書いて貼り付けます。

グループ内で確認し合い、捉え方を変えてみると感情が変わることに気づき、立ち直りのきっかけや感情のコントロールの大切さにつなげます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）学校保健教育研究発表会

- ◇研究主題：生きる力をはぐくむ心の健康教育のあり方
～人との関わり合いを通して 心の回復力を高める保健指導の工夫～

レジリエンス教育の「ネガティブな捉え方を変える」部分を中心に授業を行う予定です。
出来事と感情の間には「捉え方」があることを前時で学習させた上で、物事の捉え方が感情を決めることを理解させ、困難や逆境から立ち直る力の一助となるようにしたいです。

- ◇月 日：11月1日(木) ◇会場校：新潟市立亀田西中学校
◇公 開：1学級 2年 「落ち込んだ気持ちをポジティブにかえるには」

- ◇指導者：新潟青陵大学大学院 看護学研究科

新潟市教育委員会保健給食課 学校支援課 総合教育センター
新潟市教育委員会保健給食課 学校支援課 総合教育センター

授業者 養護教諭 青木 康子
准教授 塚原 加寿子
指導主事 大森 悦子
指導主事 松本 恵

学校保健〈下越地区〉

事例をもとに自分のこと
として考え、捉え方を
変えることで不安や
悩みを解決しよう!!



五泉市・東蒲原郡中教研 学校保健部

研究推進責任者(左) 阿賀町立阿賀津川中学校

高橋 裕香

会場校担当(右) 五泉市立五泉北中学校

松原 美紀子

共感を引き出せる事例を提示することで、自分のこととして考えさせ、学び合いの中から、捉え方を換えられる自分なりの言葉を考えることで、不安や悩みを解決する力を育てます。

手立て設定の理由

物事の捉え方を変えることでネガティブな感情を回復させる方法を身に付けさせたいと考えています。事例を通して、自分のこととして具体的に考えることで、実生活での実践につながると考えます。

手立てのメリット

- ① 共感できる事例にすることで、自分のこととして考えやすくなります。
- ② 友達への励ましとして考えることで多くの考えを集めやすくなります。また、ロールプレイで伝えあうことで、感情の変化を体験できます。
- ③ 自分なりの言葉を考えることで実生活での実践につながります。

手 立 て

生活の中で実践するために、自分のこととして考えられるよう工夫します。

ステップ1

共感を引き出すために2つの事例から自分で選んで考える。

ステップ2

友達への励ましとして言葉を考えさせ、ロールプレイで伝えあう。

ステップ3

自分なりの言葉を考える。

どのような生徒の姿を目指すか？

グループ活動で出た多くの言葉を参考にしたり、ロールプレイで励ましの言葉をかけられて気持ちの変化を体験したりすることで、自分で自分に向けてかける『捉え方を変える魔法の言葉』を考えられている姿を目指します。

ステップ 1

<事例1>

毎日まじめに練習に取り組んでいるつもりなのに、いつまでも上達しない。

<事例2>

「スマホやゲームばかりしているから、テストでこんな点数しか取れないんだ。」と親に叱られた。

中学生がネガティブに感じそうな事例を2つ用意し、共感できる方を自分で選びます。共感できる事例で考えさせることで、自分のこととして考えることができるようにします。また、グループ活動も同じ事例を選んだメンバーで構成し、グループ内で共感しやすくします。

ステップ 2

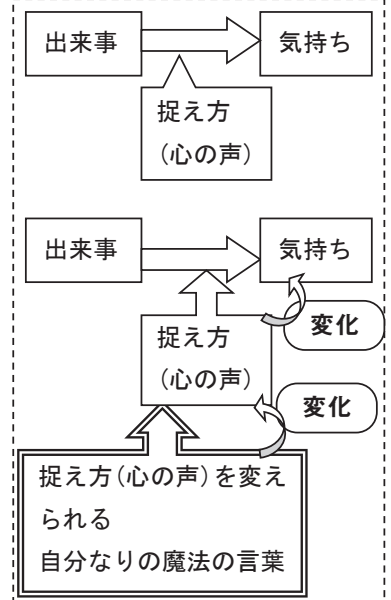


それぞれ、同じ事例の他のグループに向けて「友達への励ましの言葉」として考えることで、多くの言葉を引き出します。



ロールプレイで励ましの言葉を伝え合うことで、気持ちの変化を体験させ、自分の捉え方を変えられそうな言葉のヒントになります。

ステップ 3



捉え方を変えることで、気持ちは変化します。

捉え方を変えるために、自分で自分にかかる自分なりの魔法の言葉を考えることで、実践につなげやすくなります。

指定研究会情報

新潟下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研）学校保健教育研究発表会

◇研究主題：自分が分かり不安や悩みを柔軟に解決する生徒の育成
～ケース・スタディを通して、レジリエンスを高める授業を核として～

物事の捉え方を変えることでネガティブな感情を回復させる方法を身に付けることで、不安や悩みを柔軟に解決する生徒を目指します。自分ごととして考えさせ、自分なりの言葉を見つける授業を目指します。

◇月 日：10月29日（月） ◇会場校：五泉市立五泉北中学校

◇公 開：1学級 2年 「レジリエンスを高め、不安や悩みを柔軟に解決しよう」

授業者 教諭 阿部 良美
養護教諭 松原 美紀子

◇指導者：県立教育センター 指導主事 浅沼 文子
五泉市教育委員会 指導主事 金 洋輔

3 指定研究 1 年目の進捗状況

今年度も、指定研究 1 年目の研究チームは、
1 ヶ月早くチームを立ち上げました。

目指す生徒像をメンバーで共有し、単元
構想シートを活用して検討をおこない、秋
のプレ授業に向けて研究を進めています。
各チームの進捗状況を紹介します。



国語

学び合う授業づくりで 「生きてはたらく言葉の力」 をはぐくむ

「実の場」において自らの意志で「話し、聞き、読み、書く」という言語活動を展開できる中学生を育てたい！こんな思いをもち、学び合いのある授業の在り方を四地区で模索しています。



全県部長
上越市立潮陵中学校
校長 田中 和人

▶上越地区

深い学びが成立するための学び合いを！



上越市中教研
上越市立春日中学校
小林 由希子

市内一斉研修で、国語科における学び合いの姿とはどのようなものか、思考を深めるための有効な手立てとは何かについて話し合いました。それらを受け、研究推進委員会では具体的な生徒の姿を想定し、身に付けたい力、深い学びが成立する学び合いのための手立てについて検討しました。



小グループで話し合った結果を交流しました。

▶新潟地区

生徒の「問い」を生かす授業へ



新潟市中教研
新潟市立白新中学校
河原 久美子

第一回の推進委員会で授業検討を行いました。古典作品の読みを深めていく中で生じる生徒の疑問を、いかに解決させるかを検討している最中です。

3年生「いにしへの心と語らう」の授業構想検討会



▶中越地区

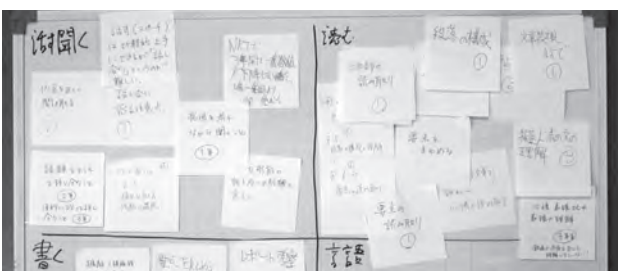
課題をもとに授業を考案中！



三条市中教研
三条市立栄中学校
塚越 卓実

推進委員でNRTの結果を持ち寄り、互いの学校の課題である領域や分野を分析しました。その結果をもとに授業案を作成し、11月1日に第四中学校で公開授業を行います。

互いの学校の課題の意見を出し合ったホワイトボード



▶下越地区

郡市9校で公開授業を実施！



村上市岩船郡中教研
村上市立朝日中学校
清野 絢

研究主題は「言語活動を通して生徒が主体的に学び合う国語科授業の在り方～学び合うことで読みを深める授業実践を通して～」です。来年度の本番に向けて、今年度から郡市9校で1校1授業を公開します。



7月30日に行った第2回研究推進委員会（単元構想検討会）

数学

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための「学び合い」を！

「学び合う授業」への取組が盛んに行われてます。しかし、「学び合い」は手段であって目的ではありません。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、「学び合い」をどう取り入れていくかを追究していきましょう。



全県部長
長岡市立旭岡中学校
校長 宮 宏之

▶上越地区

生徒の発言を生かす授業づくり！



上越市中教研
上越市立城西中学校
佐藤 行夫

数学で目指す「学び合う姿」について話し合い、活発に意見を交換しました。課題について分からない生徒のつぶやきをもとにして、生徒が学び合い高め合う授業づくりを目指します。

7月27日に実施した研究推進委員会での話し合いの様子



▶新潟地区

『手立て』を検討中！



新潟市中教研
新潟市立白新中学校
田村 友教

第1回研究推進委員会では、目指す生徒の姿を共有しました。現在「ずれを生かした課題設定」「複数の解法の対比」「振り返り」など、手立てについて検討中！



▶中越地区

一人一実践で教師の学び合いを！



長岡市三島郡中教研
長岡市立江陽中学校
鳥島 綾子

研究推進委員が、一人一実践を行います。「物事の特徴や本質を捉える視点」「思考の進め方や方向性」を働かせるために普段の授業のできる学習過程の工夫を提案していきます。



▶下越地区

数学的な見方・考え方を働かせる授業を探る！



五泉市東蒲原郡中教研
阿賀町立三川中学校
佐藤 和幸

研究主題は「数学的な見方・考え方を働かせながら、課題解決を図る生徒の育成」です。数学的な見方・考え方やそれを引き出す授業のあり方を研究しています。

毎月行っている研究推進委員会
で、授業構想を行っています。



技術・家庭

生活を工夫し，創造しようとする生徒の育成 ～実践的・体験的な 活動を通して学び合う授業～

生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し，解決策を構想する。その解決策を評価・改善しながら，課題を解決していく。この力を全生徒に身に付けさせる授業を模索中です。



全県部長
新潟市立光晴中学校
校長 逸見 東子

▶上越地区

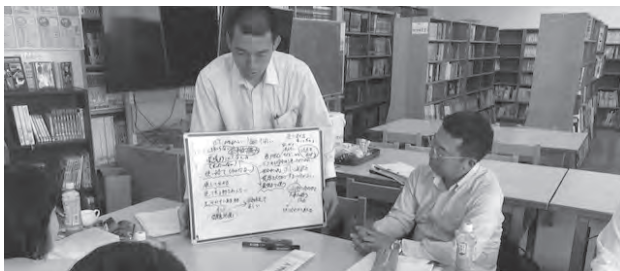
目指す生徒像を決定！実践へ！



上越市中教研
上越市立春日中学校
水野 頌之助

目指す生徒像を決定しました。他者との関わり合いを通して，技術・家庭科の見方・考え方を働かせながら最適解を導き出す生徒を目指します。

第 1 回研究推進委員会で FT を行い，目指す生徒を検討



▶新潟地区

技術，家庭の両分野で公開！



新潟市中教研
新潟市立白新中学校
関野 幹裕

生活を工夫し，創造しようとする生徒の育成を目指して，実践的・体験的な活動を通して学び合う授業を創るべく，技術，家庭の両分野でそれぞれ検討中です。

技術分野の検討会の様子



▶中越地区

生徒にとって「身近な生活」とは？

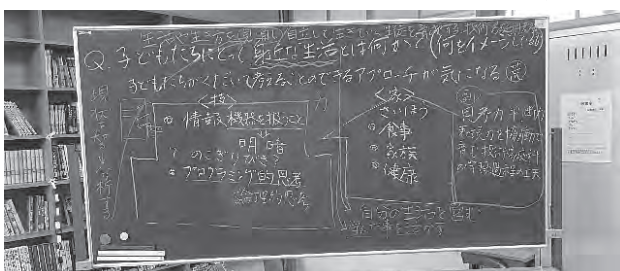


南魚沼郡市中教研
南魚沼市立八海中学校
萩井 憲二

「身近な生活」を生徒はどう考え，教師はどうとらえているかという所からスタートしました。

技術の見方・考え方について学習できるように検討しています。

6 月 20 日実施
第 2 回研究推進委員会より



▶下越地区

学び合う生徒の姿を共有！！



二市北蒲原郡中教研
聖籠町立聖籠中学校
木島 靖人

第 1 回推進委員会では，各校の生徒の実態を分析して，技術・家庭科で目指す学び合う姿を共有しました。仲間の考えを自分のアイデアに生かすための方法を検討中です。

第 1 回研究推進委員会 FT の様子



道徳

より良く生きるための道徳性を養うために、学び合いの質的な充実を図り、「考え、議論する道徳（道徳科）」を探究します

多様な手立てや思考ツールの活用による、主体的・対話的かつ多面的・多角的に考える学び合いから、自分自身と道徳的価値への深い理解につなげます。



全県部長
新潟市立葛塚中学校
校長 上村 茂

▶上越地区

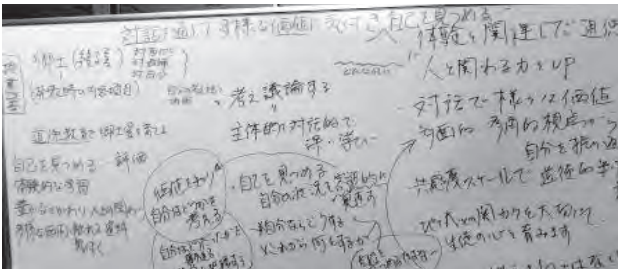
テーマを軸に公開授業の予定



柏崎市中教研
柏崎市立松浜中学校
山本 直恵

4名の公開授業とプレ発表会を通して「対話を通して多様な価値に気づき、自己を見つめる」のテーマに迫る発問や授業展開を研修していきます。

6月20日に実施した第1回研究推進委員会のFG



▶新潟地区

多面的、多角的にとらえる授業！



新潟市中教研
新潟市立白根北中学校
嵐田 浩二

推進委員会では常にFTを行い、目指す姿や手だてを共有しています。事象を多面的、多角的にとらえる学び合いのある授業づくりを実践する手だてを模索中です。

推進委員会で「研究主題」と「手だて」の検討の様子



▶中越地区

思考ツールを活用した実践！



小千谷市中教研
小千谷市立千田中学校
渡辺 直人

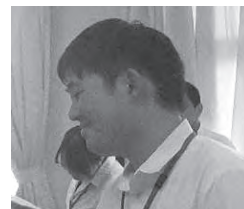
目指す生徒の姿を共有し、そのための手立てや思考ツールの活用について授業実践を通して検討しています。今後、市内中学校での授業実践から手立ての有効性を検証していきます。

FTによる振り返りを授業公開後に行っています



▶下越地区

まずは目指したい生徒の姿から！



村上市岩船郡中教研
関川村立関川中学校
長谷川 亮哉

第1回研究推進委員会で、目指す学び合う生徒の姿を共有し、その姿を実現するための有効な手だてについて話し合いました。9月には11月の授業に向けて話し合う予定です。

8月6日に行った、第1回研究推進委員会の様子です



特別活動

問題発見・解決の過程を通して、「根拠をもとにした意思決定」を目指す

集団生活を向上させるためには、その集団内での合意形成が不可欠です。そこで、問題発見・解決の過程を大切にしながら、根拠をもって意思決定ができる授業に取り組んでいます。



全県部長
田上町立田上中学校
校長 横堀 正満

▶ 上越地区

語り合い、改善策を検討・実行



妙高市中教研
妙高市立新井中学校
桑原 大和

まずは研究推進委員が語り合いました。「問題発見・解決力」「実践力」を身に付けるには、まずは「人間関係づくり」が基本であることを再確認しました。



▶ 中越地区

『集団づくりの手引き』作成！



長岡市三島郡中教研
長岡市立秋葉中学校
若林 圭太

長岡市三島郡の各中学校に「集団づくり」における取組と課題のアンケートを採りました。それを基に「良いところ取り」で、段階的に「子どもをつなぐ」年間計画作成中です。

第 1 回研究推進委員会で行った FG (KPT + a アレンジ ver.)

Item	Name	Try	How-to
「問題発見」生徒の提案 1. 先生が中心で話し合う 2. 先生が中心で話し合う 3. 先生が中心で話し合う 4. 先生が中心で話し合う 5. 先生が中心で話し合う 6. 先生が中心で話し合う 7. 先生が中心で話し合う 8. 先生が中心で話し合う 9. 先生が中心で話し合う 10. 先生が中心で話し合う	新しい活動がある。 委員 一名 1 名 経験者の先生に 指導してもらって 先生に話を聞いて 先生に話を聞いて 先生に話を聞いて	企画の取組や 活動の進め方 OJ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ	先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ
「問題解決」生徒の提案 1. 先生が中心で話し合う 2. 先生が中心で話し合う 3. 先生が中心で話し合う 4. 先生が中心で話し合う 5. 先生が中心で話し合う 6. 先生が中心で話し合う 7. 先生が中心で話し合う 8. 先生が中心で話し合う 9. 先生が中心で話し合う 10. 先生が中心で話し合う	人間関係 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ	先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ	先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ 先生といっしょ

▶ 新潟地区

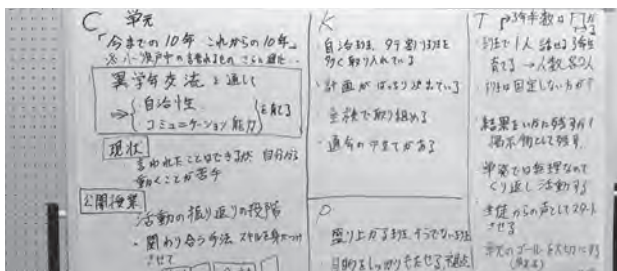
研究の課題を共有！



新潟市中教研
新潟市立石山中学校
佐藤 裕子

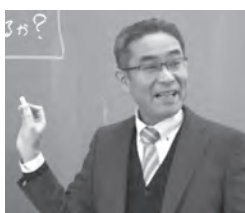
研究主題は「他者と積極的に関わり合い共に高め合う生徒の育成」です。異学年交流を軸に生徒の自主性、自治力育成を目指します。

生徒の目標や評価についてさらに検討していきます



▶ 下越地区

今求められている課題は何かを焦点化！



新発田市中教研
新発田市立本丸中学校
長谷川 直紀

授業公開する学校のニーズに合わせつつ、自他を生かす人間関係の形成を目指します。学級活動の内容(1)の中で具体化することを検討していきます。



授業校での現在の特別活動のようす

4 授業ナビゲーション



授業ナビゲーションは、教師個々の授業や各校の研修体制等の見直し・改善点を確認することを目的に県中教研で平成24年度から作成し、毎年見直しをおこなっています。

授業ナビゲーションは、ユニバーサルデザインの知見に基づいて学習環境を整える「授業スタンダード10」、教師の学び合いの指針としての「研修体制7・Web配信3」、14教科・領域の学び合う授業づくりで大切にする視点である「学び合い10」です。授業づくりと校内研修の指針・見直しとして御活用ください。

県中教研 授業ナビゲーション

授業スタンダード10

①	指示・発問の明確化	生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。
②	授業のめあてと流れの提示	授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。
③	配色やノートを意識した板書	配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。
④	評価カード等での振り返り	評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。
⑤	忘れ物への対応	予備ワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。
⑥	内容・準備の事前連絡	学習内容や準備するものを事前に伝えている。
⑦	開始終了時刻の厳守	授業の開始時刻、終了時刻を守っている。
⑧	教室前面の掲示物の簡素化	教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。
⑨	机の上の整理	机の上には必要なものだけを置くようにさせている。
⑩	座席・グループの配慮	特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して座席やグループを決めている。

研修体制7

①	(研修) 課題の抽出と目標の設定	(研修) 現状から課題を抽出し、明確な目標を設定している。
②	(研修) 課題と研修目的の共有	(研修) 課題と研究の目的を全教員が共有している。
③	(研修) 年1回以上の研究授業	(研修) 年間1回以上は全教員が研究授業をしている。
④	(研修) 事前事後の検討会	(研修) 研究授業は事前・事後に検討・協議会を組織し、実施している。
⑤	(研修) 他教科や他校職員の参加	(研修) 研究授業では、その教科以外の教員や他校教員が参観している。
⑥	(研修) 参画型の検討会	(研修) 検討・協議会は、ワークショップ型など参加者全員の参画を図っている。
⑦	(研修) 外部指導者	(研修) 外部から指導者を入れて研究授業を行っている。

Web配信3

⑧	(Web) 全校体制での実施	(Web) 実施監督や採点、入力などを分担する体制ができている。
⑨	(Web) 時間・座席等の環境整備	(Web) 校時表に組み入れたり、テスト用の座席にするなど、環境を整え実施している。
⑩	(Web) 結果の共有と改善	(Web) 結果を分析・共有し、補充学習や授業改善を全校体制で行っている。

学び合い10 (国語)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

学び合い10 (社会)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活と関わらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (数学)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒どうしが関わり合う場	発表会で終わらず、生徒どうしに関わり合う場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

学び合い10 (理科)

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位の目標や指導計画を立てている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連させて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連させて予想理由を検討している。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気付きを大切にされた観察・実験の工夫	生徒の気付きを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果にもとに結論を導き、生徒同士の意見交流を通して考えを深めさせている。

学び合い10 (英語)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や英語の運用能力など生徒の実態を把握した上で、単元単位の目標や計画を立てている。
③	生徒の興味・関心を喚起する課題設定	生徒の知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような課題を設定している。
④	「練り合い」場面の設定	生徒が協働して表現方法を練り上げる場面を設定している。
⑤	個の学習の確保	生徒が自分の意見や考えを確かめたり深めたりできるよう、「1人学びの時間」を十分確保している。
⑥	ペア・グループによる学習	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（グループ・ペア）と構成を、意図的に選択して行っている。
⑦	活動の手順、ルール周知	活動の手順やルールを明確に提示している。
⑧	役割分担	全員が活動に参加できるように、個人の課題や役割分担を明確に提示している。
⑨	4技能	4技能の使用バランスや、4技能が統合的活用できる課題を設定している。
⑩	評価・振り返り	ねらいや大切なポイント（評価シート等で）理解させた上で生徒が自分の活動を振り返る場面を計画的に設定している。

学び合い10 (音楽)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルール周知	活動の見通しが分かるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント（評価シート等で）に即して活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (美術)		
①	題材と目標と指導計画	生徒の発達段階や生活体験, 学習状況に基づいて, 指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的好奇心を刺激したり, 学習意欲を高めたりするような題材を設定する。
③	対話や創作活動から自己を見つめる	言語等を用いて, 色や形などを観点に交流したり, 振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現しようとする意図に応じた技法や表現方法を試したり, 材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	造形的な環境づくり	美術室をはじめ, 校内に日常的に作品を鑑賞できる環境を整えている。
⑥	鑑賞授業の充実	創造活動に関わることや世界と日本の文化等の鑑賞授業を行う。
⑦	美術館・大学等との連携した活動	美術館や大学, 関係諸機関等との関わりをもち, 人材・作品・資料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ, 生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け, 機能や美しさを追求したり, 生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	表現活動において, 用途や機能を基に交流したり, 検討したりを通して, 相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

学び合い10 (保健体育)		
①	生徒の理解・実態の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し, 単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し, 主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しをもたせる工夫をしている。
⑥	発問・説明, 肯定的な関わり	思考や気付きを促す発問や説明がされたり, 賞賛・助言・励まし等, 肯定的に関わったりしている。
⑦	場の設定	課題の発見や課題解決を促す場が設定されている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなど関わり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし, ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し, 授業の振り返りをさせ, 次時への課題をもたせている。

学び合い10 (技術・家庭)		
①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項, 他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし, その実現に有効な“学び合い”の場を位置付けて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために, 身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて, 個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	関わり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために, 教え合い, 共同作業, 話し合い, 発表の場などを取り入れている。
⑥	関わり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし, 話し合い, 発表など, それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために, 実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり, 伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに, よりよい生活や社会の実現について, 自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり, 次の学習につなげたりするために, 観点を明確にした評価の場を設定している。

学び合い10 (道徳)		
①	学習環境と実態把握	グループや全体において自分の考えを主張でき、他者の考えを認め合う支持的風土を育て、生徒の実態や道徳性の高まりを把握して授業を構成している。
②	組織的な取組の推進	校長や道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、組織的に全体計画・年間指導計画等を作成し、年間35時間の道徳科を量的に確保している。
③	自分の問題として捉える課題設定	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現する課題を設定している。
④	「考え、議論する道徳への転換」のための指導方法の改善 (質の高い多様な指導方法)	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習で、自分との関わりにおいて多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深める授業を工夫している。
⑤		生徒が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を自分事として考えるなどの問題解決的な学習を設定している。
⑥		様々な問題や課題を主体的に解決するために、道徳的行為に関する問題場面で実感を伴って理解できる体験的な学習を設定している。
⑦	他者の考えに触れ、議論を深める場の設定	ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、構造化する。フレームワーク(思考ツール)で生徒の考えを可視化し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を獲得している。
⑧	よりよい生き方を考え、振り返る場の設定	本時または一定のまとまりの中で道徳科の学習を振り返り、可視化された多様な価値観から道徳的課題や価値にじっくりと向き合い、よりよい方向を模索する場を設定している。
⑨	評価の在り方と具体的な工夫	「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を個人内評価として丁寧に見取り、記述する様式や表現するための記録の蓄積方法を工夫している。
⑩		学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視している。

学び合い10 (特別活動)		
①	必要感・達成感のある題材(単元)	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心を持ち、意欲的に解決しようとする題材(単元)を設定している。
②	題材(単元)の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材(単元)の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒が、よりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見付ける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定している。
⑨	意思決定	集団決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

学び合い10 (進路指導)		
①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力、態度が身に付くよう計画している。
②	生徒理解と身に付けさせる能力	キャリア教育の視点から、生徒の実態と課題を把握し、どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身に付けさせるか、指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において、将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して、将来について自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり、各教科、領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう、横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり、校外で体験活動を展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が、日常生活や社会との関わりの中で進路学習が展開できるよう、地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え、自分の意思で進路を選択し、自己実現できるよう支援している。

学び合い10（総合的な学習の時間）

①	指導計画の工夫	小学校での取組を踏まえるとともに、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、目指す資質や能力、態度が身に付くように計画している。
②	課題設定	日常生活や実社会に目を向けて、生徒自らが、「ひと・もの・こと」と自分との関わりの中から課題を設定している。
③	個の学びの設定	学習活動において、自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	体験的な活動の工夫	体験活動を探究的な学習の過程に位置付け、他者と協働して活動できるよう工夫している。
⑤	交流の場の設定	学習対象をより多面的・多角的に捉えたり、自分の考えや意見を深めたり広げたりする交流の場を設定している。
⑥	学習環境の整備	図書館やPC室などで資料やICTを活用したり、校外でのフィールドワークを展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑦	地域・家庭との連携	生徒が、日常生活や実社会との関わりの中で学習活動を展開できるよう、地域や家庭と連携を図っている。
⑧	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑨	追究や表現の仕方の工夫	情報の集め方や調べ方、整理や分析の仕方、まとめ方など、目的や相手に応じた追究や表現の仕方の具体例を示したり、経験させたりしている。
⑩	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見いだした課題が今後の自分の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。

学び合い10（学校保健）

①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気付くことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わり合いを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちをもたせている。
⑥	実践化への意欲付け	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちをもたせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。

県中教研 15部会の重点方針

	重点方針
国語	<p>言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。 ○考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。 ○話の内容や意図に応じた表現力を育てる。 ○目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。 ○学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。 ○資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。
数学	<p>数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにし、それらを活用して課題解決に主体的に取り組める学習指導の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の習熟を図るとともに、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を育成する。 ○生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題で学び合う学習を計画的に実施する。 ○生徒自らが学習の振り返りができるよう、学び直しの機会を設ける。
理科	<p>目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。 ○他者との関わりや問題解決的な活動を展開することを通して、科学的な見方・考え方を育てる。 ○地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。 ○音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。
美術	<p>生涯にわたり、美術を生活に取り入れれたり、楽しんだりする生徒の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に関わる「人・もの・こと・自然」を活用した授業を取り入れる。 ○対話のある授業によって、思考を働かせ、発想力が高まったり、お互いの考えを認め合ったりする生徒を育てる。
保健体育	<p>運動や健康・安全についての理解を深め、体力の向上と健康の保持増進のための実践力を身に付けるとともに、各種運動の合理的な実践をとおし、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態把握を的確に行う。 ○学習過程を工夫する。 ○学習資料提示の仕方を工夫する。 ○評価方法の工夫・改善を図り、指導に生かす。 ○運動を通して公正さや協力する態度を育てる。
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。 ○学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。

	重点方針
英語	<p>基礎・基本の確かな定着を図るとともに、コミュニケーション能力の基礎を培う学習指導を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域のバランスのとれた指導に努め、まとまりのある英語を理解したり、表現したりする活動を進める。 ○語彙や文構造については、コミュニケーションを支えるものとしての視点から言語活動を関連させながら定着を図る。 ○身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動の実践に努める。 ○小学校の外国語活動に関する小中の連携を深め、小学校における活動内容について情報交換するなど、中学校区ごとに研修を進める。
道徳	<p>道徳的諸価値についての理解と自覚を深める手立てを講じ、よりよい生き方を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考え、議論する道徳」に向けて求められる質の高い多様な指導方法を展開し、量的確保と質的転換を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。①登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習等のそれぞれの要素を組み合わせた指導も可。 ○ファシリテーション等で多面的・多角的に考えを拡散し、フレームワーク(思考ツール)で生徒の考えを可視化(構造化)し、道徳的価値の理解や自覚を深め、納得解・最適解を得る手立てを講じる。 ○自分や学びにじっくりと向き合い、自覚を深め、よりよい生き方を考えて道徳性を養う。
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。 ○自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。 ○すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、携帯電話等に関わる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。 ○中学校区の小学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職業体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己理解を深める指導を充実させる。 ○生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。 ○勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。
総合	<p>学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びが実現できるような学習指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。 ○「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。 ○生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。

編集後記



新潟県中学校教育研究会

理事長 若月 弘久(新潟市立白根北中学校 校長)

今日まで、そして、明日から

1. 求められる力

文部科学省は今年6月に「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～」をまとめました。そこには，AIやロボットによって多くの仕事が代替され，劇的に変化し続ける今後の社会の中で，人間らしく豊かに生きていくために必要とする力は，これまで誰も見たことない特殊な能力ではなく，むしろどのような時代の変化を迎えようと，知識・技能，思考力・判断力・表現力をベースとした言葉や文化。時間や場所を超えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性としており，特に共通して求められる力として①文章や情報を正確に読み解き，対話する力，②科学的に思考・吟味し活用する力，③価値を見つけ生み出す感性と力，好奇心・探究力と述べられています。

2. 成果

当会は，平成25年創設50周年を節目として「学び合う授業の創造」を推進してきました。

この間の歩みと成果は，

- (1) ユニバーサルデザインの知見に基づいて学習環境を整える「授業スタンダード10」，教師の学び合いの指針とした「研修体制7・WEB配信13」，学び合う授業づくりで大切とする視点である「学び合い10」を全県に示したこと。
- (2) 毎年20のチームが指定研究会を実施すると共に，授業情報誌「Class」の創刊し，学び合う授業の具現化を図ったこと。
- (3) 各校の校内研修や授業研究において，ファシリテーション（FT）の手法や単元構想シートを活用することで学び合う教師の姿の具現化に取り組んだこと。

このように取り組んだ結果，FTを用いた研究授業や教科の壁を越えた授業の構想検討は多くの学校で行われるようになり，授業研究は飛躍的に変化してきました。

3. 目指す方向

今回特別寄稿として上智大学総合人間科学部教育学科教授の奈須正裕様から執筆いただいた内容は，まさに大きく変化しようとする日本社会に対応した新潟県中学校教育研究会の目指す学びの方向性を「『知識及び技能』の質的向上」としてご示唆くださいました。今後も創設60周年に向け改革のスピードを緩めることなく5年間の成果の上に更に積み上げられるよう覚悟をもって邁進したいと考えます。

4. 最後に，

この「授業情報誌Class」の編集にあたり，編集に関わった事務局、貴重な原稿をいただいた各全県部長・副部長，指定研究校の皆さん，各研究推進委員の皆さんに感謝申し上げ，編集後記といたします。